

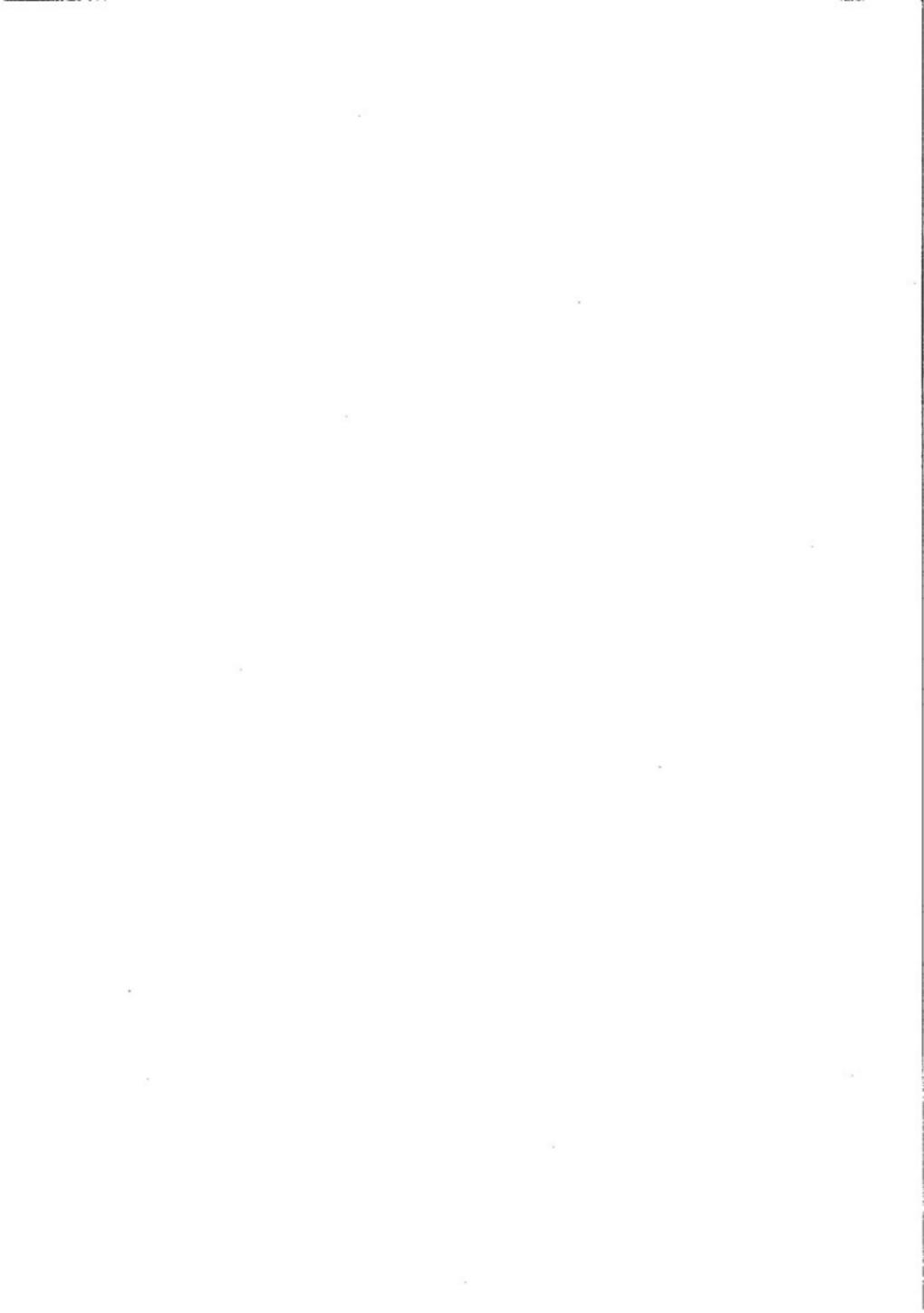
財團法人 八尾市文化財調査研究会報告104

I 太田遺跡（第7次調査）

II 太田遺跡（第8次調査）

2007年

財團法人 八尾市文化財調査研究会



財團法人八尾市文化財調査研究会報告104

I 太田遺跡（第7次調査）

II 太田遺跡（第8次調査）

2007年

財團法人 八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市は大阪府の東部に位置し、旧大和川が形成した河内平野の中心部にあたります。八尾市は古くから人々の生活の場として栄えていた地域であり、現在でもそれらの先人が残した貴重な文化遺産が数多く存在しております。

近年、都市開発が進み各種土木工事等が増加するなか、開発に伴う発掘調査を実施することにより、これらの文化財を破壊から守ること、また発掘調査による記録保存を行い、市民の財産である文化財を後世に伝承することが我々の責務であると認識する次第であります。

本書は、平成17~18年度に行いました公共事業に伴う発掘調査の成果を収録したものであります。

今回報告する太田遺跡第7次調査では平安時代～鎌倉時代の生産遺構が見つかり、また、同第8次調査では旧石器時代の石器や、縄文時代の石器、弥生時代の河川等が見つかりました。これらの調査によって得られた情報は、当時の人々の生活や社会の変化を知る上で貴重な役割を果たしています。

本書が学術研究の資料として、また文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、この発掘調査が、関係諸機関及び地元の皆様の多大なる御理解と御協力によって進めることができましたことに深く感謝の意を表します。今後とも文化財保護に一層の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 岩崎 健二

序

1. 本書は、財団法人八尾市文化財調査研究会が平成17年度および平成18年度に実施した、公共事業に伴う発掘調査の成果報告を収録したもので、内業整理及び本書作成の業務は各現地調査終了後に着手し、平成19年3月をもって終了した。
1. 本書に収録した報告は、下記の目次のとおりである。
1. 本書に収録した各調査報告の文責は、I 高萩千秋、II 西村公助で、全体の構成・編集は西村が行った。
1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1(平成8年7月発行)・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布地図』(平成17年度版)をもとに作成した。
1. 本書で用いた高さの基準は東京湾標準潮位(T.P.)である。
1. 本書で用いた方位は磁北及び座標北(国土座標第VI系〔世界測地系〕)を示している。
1. 遺物実測図は、断面の表示によって下記のように分類した。
　　弥生土器・古式土師器・石器 - 白、須恵器 - 黒
1. 土色については『新版標準土色帖』1997年後期版 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
1. 各調査に際しては、写真・カラースライド・実測図を、後世への記録として多数作成した。各方面での幅広い活用を希望する。

目 次

はしがき

序

八尾市埋蔵文化財分布図

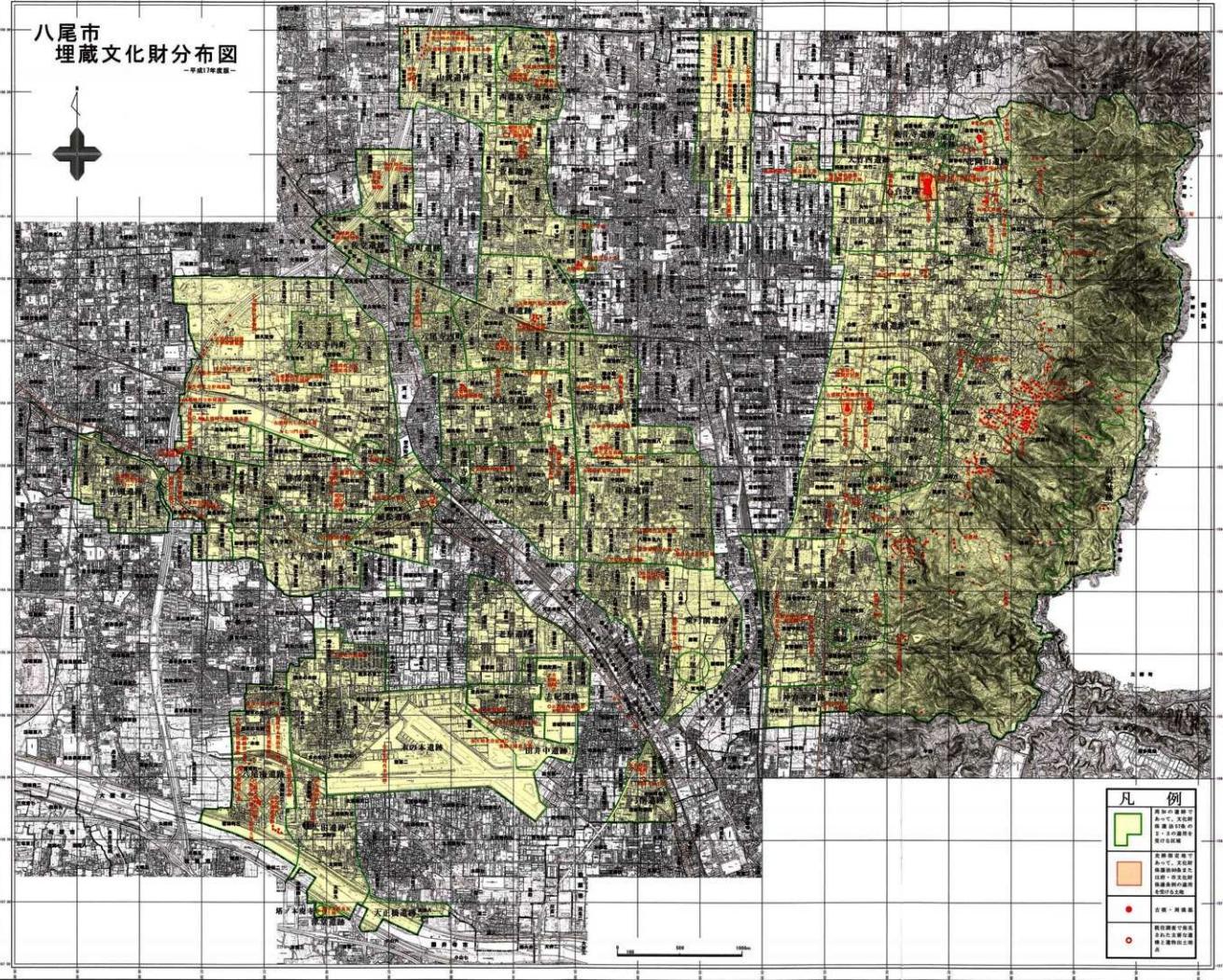
I 太田遺跡第7次調査(OOT2005-7) 1

II 太田遺跡第8次調査(OOT2006-8) 5

報告書抄録

八尾市
埋蔵文化財分布図

一平成17年度版



I 太田遺跡第7次調査（OOT2005-7）

例　　言

1. 本書は大阪府八尾市太田三丁目地内で実施した寝屋川流域下水道飛行場南増補幹線（第3工区）下水管渠築造工事（埋設管〔民地部〕）に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する太田遺跡第7次調査（OOT2005-7）の発掘調査業務は、大阪府教育委員会及び八尾市教育委員会の指示に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が大阪府から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成17年10月31日～11月11日（実働3日）にかけて、高萩千秋を担当者として実施した。調査面積は約80m²を測る。なお、調査においては垣内洋平・國津れいこ・村井俊子が参加した。
1. 内業整理は現地調査終了後に着手し、平成17年11月30日に終了した。なお、整理においては伊藤静江・垣内・都築聰子・山内千恵子が参加した。
1. 本書の図面トレースおよび執筆・編集はすべて高萩が行った。

本　文　目　次

第1章　調査概要.....	1
第1節　遺跡の概要.....	1
第2節　調査の方法と経過.....	2
第3節　層序.....	2
第4節　検出遺構と出土遺物.....	3
第2章　まとめ.....	3

挿　図　目　次

第1図　調査位置図及び周辺図（S=1/5000）.....	1
第2図　調査位置図（S=1/250）.....	2
第3図　断面図（S=1/125）.....	4
第4図　調査区平面図（S=1/125）.....	4

図　版　目　次

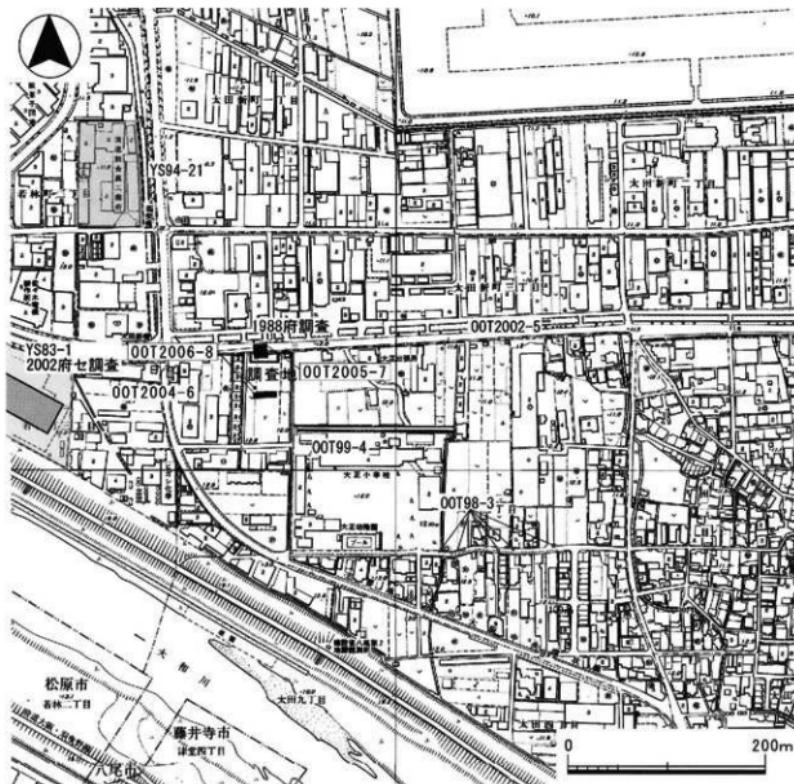
図版一　調査区東部　溝検出状況　調査風景

第1章 調査概要

第1節 遺跡の概要

太田遺跡は八尾市の南部に位置し、行政区画では太田3・4・9丁目、太田新町1・3丁目をその範囲としている。地理的には南から伸びる羽曳野丘陵の先端部と北側に広がる旧大和川の沖積地との接点部に位置する。当遺跡の周囲では、南に大正橋遺跡、津堂遺跡(藤井寺市)、西に八尾南遺跡、北に木の本遺跡が接している。

当遺跡は近年の発掘調査の成果によって旧石器時代～中世に至る複合遺跡であることが確認されている。当調査地の近隣では昭和62年度の大坂府教育委員会による公共下水道工事に伴う発掘調査で旧石器時代の石器が多量に出土している(註1)。また、平成5年度の八尾市教育委員会による共同住宅に伴う発掘調査では平安時代～鎌倉時代の井戸・小穴・溝等の遺構を検出している。



第1図 調査地位置図及び周辺図 (S=1/5000)

第2節 調査の方法と経過

今回の調査は、寝屋川流域下水道飛行場南増補幹線(第3工区)下水管渠築造工事(埋設管〔民地部〕)に伴う埋設管移設による掘削部分を対象とした。調査対象面積は、約80m²を測る。

現地表下0.6~1.1mまでの地層について機械掘削を行い、以下、0.1~0.2mについては人力掘削し、遺構の検出に努めた。

調査の結果、現地表下1.1~1.2m(T.P.+10.0m)前後で平安時代末~鎌倉時代の地層を検出した。生産遺構である畦畔3条・水田面3筆、近世の溝4条を検出した。出土遺物については土師器とみられる小片が確認された。以下、調査結果について記す。

第3節 層序

現地表(T.P.+12.3m)下1.2mまでの間の地層で普遍的に存在する7層を摘出して基本層序とした。以下、各層を記す。

第1層：盛土(層厚70~80cm)。本下水工事のため、埋め立てた層である。

第2層：耕作土(層厚15~20cm)。現在(工事前)まで耕作されていた層で、ほぼ水平堆積である。

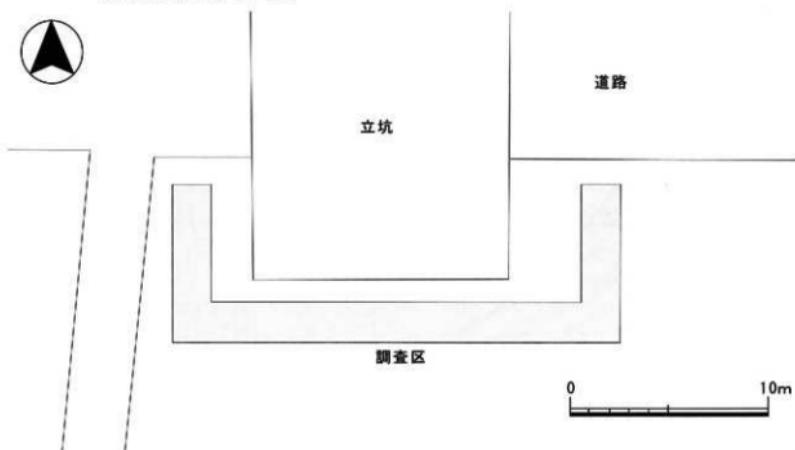
第3層：淡褐灰色シルト質土(層厚10~30cm)。二酸化マンガンと思われる褐色の斑点が上部でみられる。第3'層(青灰茶色シルト質土)は調査区の西側でみられる。

第4層：淡茶灰色粘質シルト(層厚5~20cm)。近世の時期の層と考えられる。東側でみられる。

第5層：淡灰茶色細砂混微砂(層厚10~20cm)。平安~鎌倉時代の洪水等による堆積層と考えられ、下部で水田跡が良好な状態で遺存しており、一気に埋没したものと思われる。

第6層：乳灰茶色微砂(層厚5~10cm)。第5層と同様で、調査区西側では第6'層(乳灰茶色微砂混暗褐灰色粘質土)になる。

第7層：暗褐灰色粘質土(層厚20cm以上)。平安~鎌倉時代の水田土層と考えられる。調査区西側は細砂を含んでいる。



第2図 調査区位置図 (S=1/250)

第4節 検出遺構と出土遺物

調査の結果、第5層上面で近世以降の溝6条（SD101～106）を検出。第7層上面では、水田面3筆（水田201～203）・畦畔2条（畦畔201・202）を検出した。出土遺物は第4層内から土師器の小片を確認したのみである。以下、各遺構について記す。

近世

溝（SD）

検出した6条の溝（SD101～106）はすべて南北方向に伸びる。SD101・102は幅20～30cm、深さ15～20cmを測る畠溝、SD103～106は幅0.8～1.5mを測る排水溝と考えられる。

平安～鎌倉時代

水田遺構

調査区の全体で水田を確認している。調査区東側で「ト」形に畦畔（畦畔201・202）が見つかっており、水田面は3筆（水田201～203）になる。東西に伸びる畦畔より北側の水田201は西側及び南側の水田面より一段低く、調査区での高低差は約10cm前後を測る。東側の水田面では足跡と思われる楕円形の窪みがみられた。

第2章 まとめ

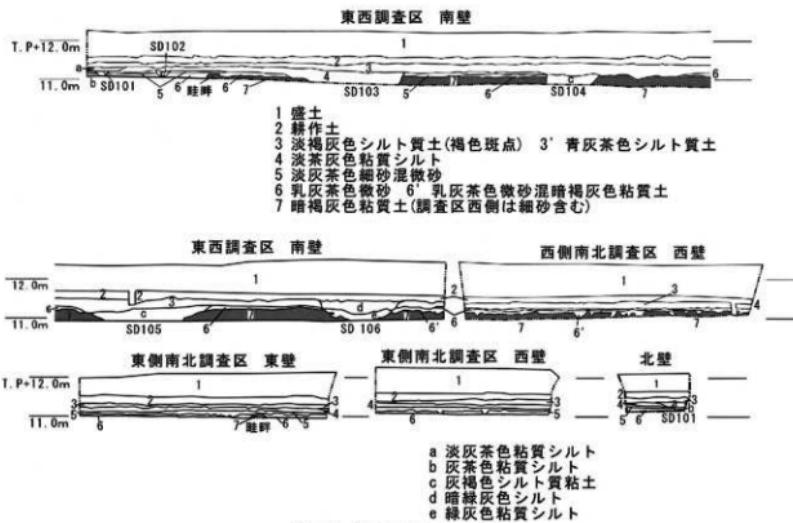
今回の調査は、下水工事の埋設管移設に伴う調査であった。調査の結果、平安～鎌倉時代にかけての生産遺構、近世の耕作に伴う耕作溝を確認することができ、調査区全域に良好な状態で遺存しているようである。今回は現地表下約1.2mまでの一時的な掘削工事であり、それより以下の地層については保存を優先したものである。下層（旧石器～古墳時代の地層）については北側の立坑掘削工事に伴う調査で明らかにされるであろう。

註

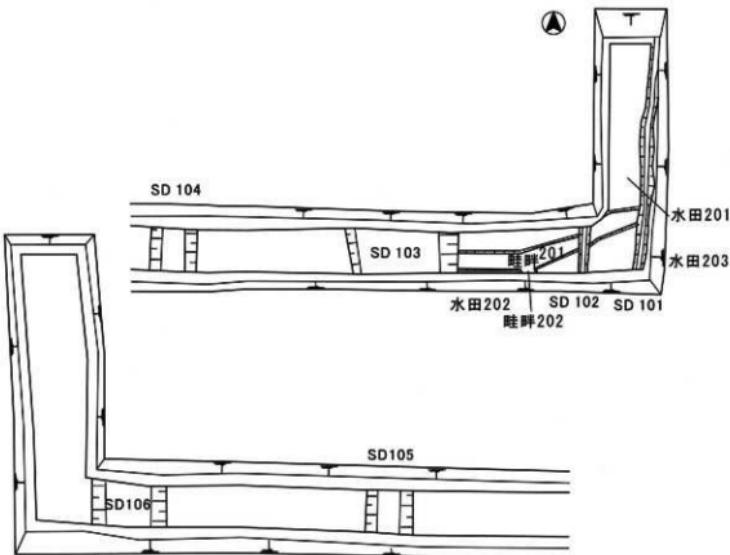
註1 福田英人1989「八尾南遺跡－旧石器出土第3地点－」大阪府教育委員会

参考文献

- ・米田敏幸1988「大正橋遺跡(86-516)の調査」『八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市教育委員会
- ・西村公助1992「太田遺跡第1次調査(OOT91-1)」『平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・吉田野乃1994「4. 太田遺跡(93-81)の調査」『八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市教育委員会・1990『太田遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会



第3図 断面図 (S=1/125)



第4図 調査区平面図 (S=1/125)

図 版



調査区東部 溝検出状況（南から）



調査風景（東から）

II 太田遺跡第8次調査（OOT2006-8）

例　　言

1. 本書は大阪府八尾市太田三丁目地内で実施した寝屋川流域下水道飛行場南増補幹線下水管渠築造工事に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する太田遺跡第8次調査（OOT2006-8）の発掘調査業務は八尾市教育委員会の指示書に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が大阪府から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成18年5月12日～同年11月16日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積は約372.94m²を測る。
1. 現地調査に参加した補助員は伊藤静江、岩沢玲子、國津れいこ、芝崎和美、鈴木裕治、曹龍、竹田貴子、田島宣子、西口佳奈、橋本黄士、細谷利美である。
1. 内業調査は現地調査終了後随時を行い、平成19年3月31日に終了した。
1. 本書作成に関わる業務は以下の通りである。
【遺物実測】市森千恵子、岩沢、中村百合、永井律子、村井厚三、村井俊子、村田知子
【トレース】市森、西村
【遺物写真】青山 洋、垣内洋平 【執筆・編集】西村

本文目次

第1章 調査概要.....	5
第1節 調査の方法と経過.....	5
第2節 層序.....	6
第3節 検出遺構と出土遺物.....	7
1) 検出遺構	7
2) 遺構に伴わない出土遺物	21
第2章 まとめ.....	30

挿図目次

第1図 調査区・設定図.....	5
第2図 1～3区断面図.....	8
第3図 1-1区N R1401出土遺物実測図.....	10
第4図 1-1区17層上面遺物出土状況実測図.....	12
第5図 1区第1～6面平面図.....	13・14
第6図 1区第7～11面平面図.....	15・16
第7図 2区S D2103出土遺物実測図.....	17
第8図 2・3区1～6面平面図.....	19・20
第9図 2区5・6層出土遺物実測図.....	22
第10図 1-1区15層出土遺物実測図.....	26
第11図 1-1区16層出土遺物実測図.....	27

第12図	1 - 1 区17層出土遺物実測図①	28
第13図	1 - 1 区17層出土遺物実測図②	29

表 目 次

表1	S D1101~1103法量表	7
表2	畦畔1101・水田1101法量表	9
表3	S K1201~1215法量表	9
表4	S D1201~1205法量表	10
表5	N R1401法量表	11
表6	N R1401出土遺物観察表	11
表7	S K1701・1702法量表	11
表8	S D2101~2103法量表	17
表9	S D2103出土遺物観察表	17
表10	畦畔2101~2103・水田2101~2104法量表	17
表11	S K2201法量表	18
表12	S K2301~2314法量表	18
表13	N R2301法量表	21
表14	S D3101法量表	21
表15	2区5・6層出土遺物観察表	22
表16	石器観察表I	23
表17	石器観察表II	24
表18	石器観察表III	25

図 版 目 次

図版一	調査前 調査地周辺 1 - 1 区第1面全景 1 - 1 区第2面全景 1 - 1 区第3面全景 1 - 1 区第4・5面全景 1 - 1 区第6面全景 1 - 1 区第7面全景
図版二	1 - 1 区第8面全景 1 - 1 区第9面全景 1 - 1 区第10面全景 1 - 1 区第11面全景 1 - 2 区全景 1 - 3 区全景 2 - 1・2 - 2 区第1面全景 2 - 1・2 - 2 区第2面全景
図版三	2 - 1・2 - 2 区第3面全景 2 - 1・2 - 2 区第4面全景 2 - 1・2 - 2 区第5面全景 2 - 1・2 - 2 区第6面全景 3 区機械掘削 3 区第1面全景 3 区第2面全景 3 区第3面全景
図版四	1 - 1 区北壁 2 - 2 区東壁 3 区北壁
図版五	1 - 1 区17層上面石器 (S127・128) 出土状況 1 - 1 区17層上面石器 (S129~135) 川土状況
図版六	1 - 1 区N R1401 2 区 S D2103 2 区5層 2 区6層出土遺物
図版七	1 - 1 区15層出土遺物
図版八	1 - 1 区16層出土遺物
図版九	1 - 1 区17層出土遺物
図版一〇	1 - 1 区17層出土遺物

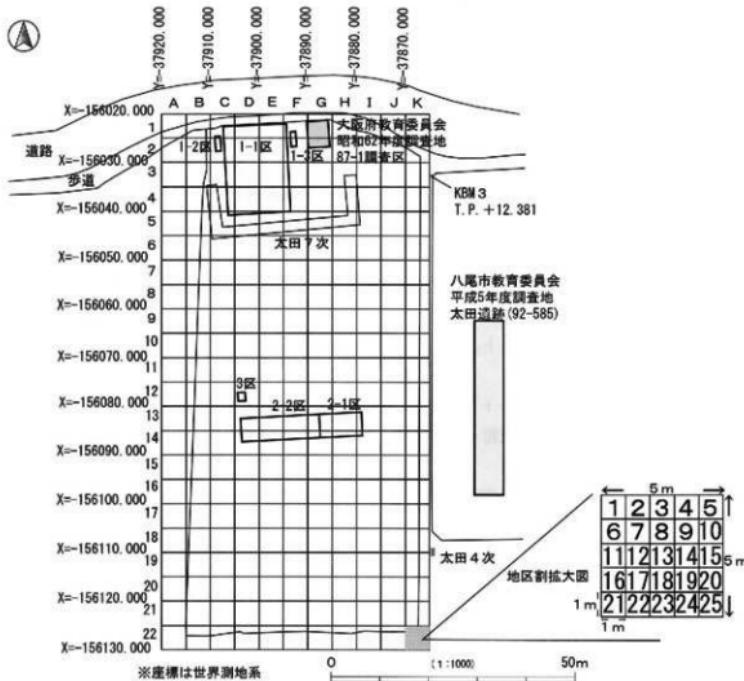
第1章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

今回の調査は、研究会が太田遺跡内で行った第8次調査にあたる。調査箇所は3箇所あり、発進立坑を1区、土砂ピットを2区、泥留ピットを3区と名付けた。発進立坑は本体部分(1-1区)、西側にある工事掘削部分(1-2区)、東側にある工事掘削部分(1-3区)の3箇所に分かれている。また、土砂ピットは工事の都合上、矢板で仕切られていることから、東側を2-1区、西側を2-2区と呼称した。

調査は市教委の指示に従い、現地表(T.P.+12.2m)下約0.9mを機械で掘削し、以下、1-1区は約2.9mまで、1-2区と1-3区は約1.4mまで、2区は約1.8m、3区は約0.5mの厚みの地層について人力で掘削し遺構および遺物の検出に努めた。

地区網は、調査地を覆う南北110m、東西55mの範囲に設定した。国土座標(世界測地系)のX = -156020.000 Y = -37920.000を基準点とし、5m毎に南へアラビア数字(1~22)、東へア



第1図 調査区設定図

ルファベット(A～K)を付け、各地区を1AI区～22K区と呼称した。各地区はさらに1m四方で区画し、北西側から1・2・3…25の番号を与えて小区を設定した。各小区は地区と小区の番号とを組み合わせて、1A-1区のように呼ぶことにした。また、X軸とY軸の交点を地点の名称とした。

第2節 層序

1区

- 0層 盛土
1層 2.5Y7/2灰黄色細粒～粗粒シルト。
2層 10YR4/4褐色細粒砂混粘土。上面攪拌を受け土壤化。上面第1面。鎌倉時代に比定。
3層 10YR1.7/1黒色細粒砂混粘土。植物遺体を含む。
4層 10YR6/1褐灰色粘土質粗粒シルト。上面第2面。古墳時代前期～中期に比定。
5層 2.5Y2/1黒褐色細粒シルト質粘土。上面第3面。弥生時代後期に比定。
6層 2.5Y3/2黒褐色細粒シルト質粘土。上面第4面。弥生時代前期に比定。
7層 5B5/1青灰色細粒砂混粗粒シルト。上面第4面。弥生時代前期に比定。
8層 2.5Y4/1黄灰色細～中疊混粗粒砂。
9層 5G6/1緑灰色細粒シルト。
10層 10BG5/1青灰色細粒砂～粗粒砂。
11層 5BG5/1青灰色粘土。
12層 5Y3/1オリーブ黒色粗粒砂～細粒砂。
13層 10GY5/1緑灰色粗粒砂～細粒砂。
14層 5G6/1緑灰色細粒シルト質粘土。上面第5面。府教委第6層に相当。
15層 2.5Y3/1黒褐色粘土。層内には鬼界アカホヤ火山灰を含む。上面第6面。縄文時代前期以前の石器が出土した。府教委第7層に相当。
16層 2.5Y7/2灰黄色細粒シルト質粘土。上面第7面。縄文時代前期以前の石器が出土した。府教委第8層に相当。
17層 2.5Y6/1黄灰色細粒シルト。上面第8面。後期旧石器時代の石器が出土した。府教委第12層に相当。
18層 10GY6/1緑灰色細粒シルト質粘土。上面第9面。府教委第14層に相当。
19層 7.5Y6/3オリーブ黄色細粒シルト。層内には始良丹沢火山灰を含む。上面第10面。府教委第16層に相当。
20層 5Y5/4オリーブ+10G7/1明緑灰色粘土。府教委第18層に相当。
21層 5Y5/2灰オリーブ色細粒シルト質粘土。上面第11面。府教委第19層に相当。

2・3区

- 0層 盛土。
1層 10Y4/1灰色細粒砂混粘土。
2層 10Y6/1灰色粗粒砂混粘土。
3層 5Y6/2灰オリーブ色細粒砂。
4層 5Y7/2灰白色細粒～粗粒シルト。

- 5層 2.5Y3/1黒褐色細粒砂混粘土。マンガン斑あり。上面第1面。
- 6層 2.5Y4/1黄灰色細粒砂混粘土。上面第2面。
- 7層 5Y5/4オリーブ色細粒シルト質粘土。上面第3面。
- 8-1層 5Y5/1灰色細粒シルト質粘土。まばらに粗粒砂含む。
- 8-2層 7.5YR3/3暗褐色粗粒砂。
- 9層 N2/0黒色粘土。
- 10層 10BG5/1青灰色細粒シルト質粘土。
- 11層 N3/0暗灰色粗粒砂質粘土。上面土壤化。上面第4面。
- 12層 2.5Y4/1黄灰色細～中疊混粗粒砂。
- 13層 5B5/1青灰色粘土質シルト。
- 14層 10YR3/1黒褐色粘土質粗粒砂。上面土壤化。上面第5面。府教委第4層に相当。
- 15層 10GY5/1緑灰色粗粒砂～細粒砂。
- 16層 5G6/1緑灰色細粒シルト質粘土。縄文時代中期頃に比定。府教委第6層に相当。
- 17層 2.5Y3/1黒褐色粘土。層内には鬼界アカホヤ火山灰を含む。上面第6面。縄文時代前期に比定。府教委第7層に相当。
- 18層 2.5Y7/2灰黄色細粒シルト質粘土。府教委第8層に相当。
- 19層 2.5Y6/1黄灰色細粒シルト。府教委第12層に相当。

第3節 検出遺構と出土遺物

1) 検出遺構

1-1区(規模13.1×18.5m)

第1面

T.P.+11.1m前後の2層上面で、鎌倉時代の溝3条(S D1101~1103)、畦畔1条(畦畔1101)、水田1筆(水田1101)を検出した。

なお、中央部は雨水用排水管などの現在の工事により掘削されており、遺構の検出はできなかつた。

溝(S D)

S D1101~1103

南北方向に伸びる溝で、S D1101とS D1102、S D1102とS D1103の間隔は3.2mを測る。S D1101とS D1102は水田1101を切る。

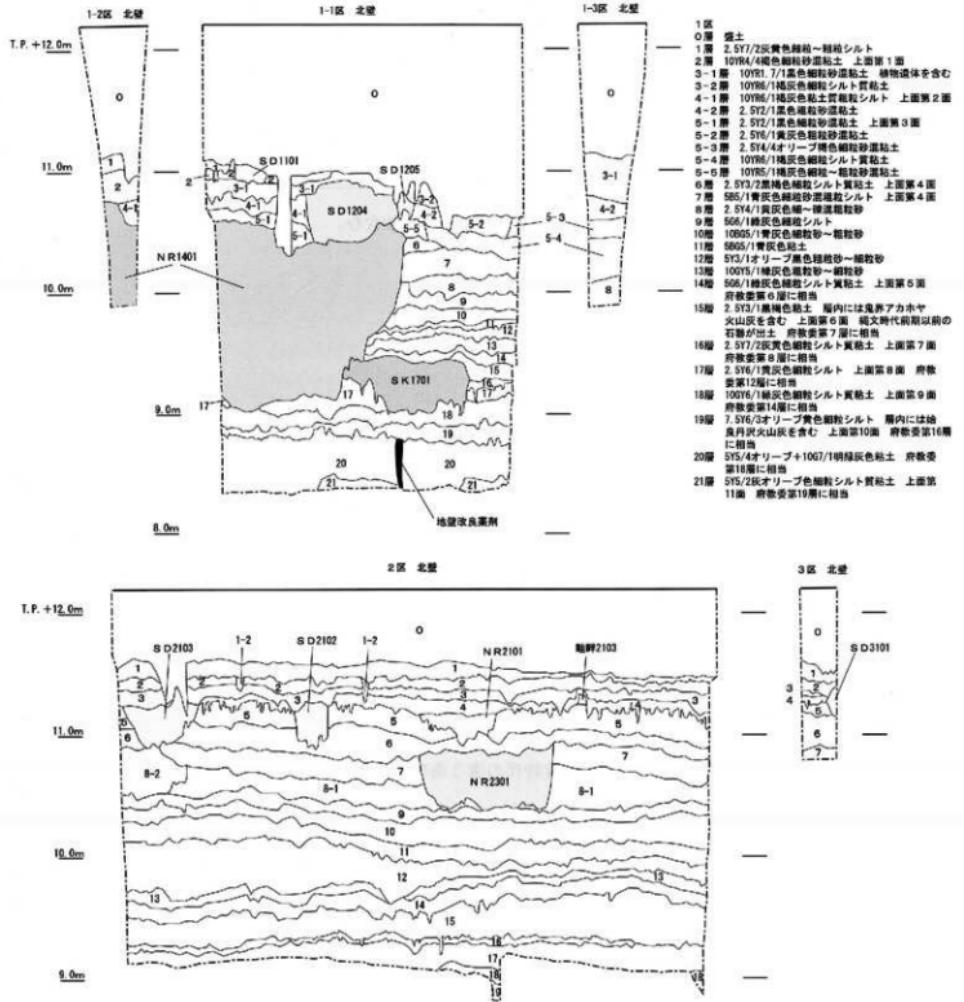
表1 S D1101~1103法量表

遺構番号	地 区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋 土		出土遺物
						5Y5/1灰色細粒～粗粒砂混粘土	なし	
S D1101	1-3 C-D 4-5 C	南北方向に直線に伸びる。	1.35	浅い皿形	0.2	5Y5/1灰色細粒～粗粒砂混粘土	なし	
S D1102	3-5 D-E	南北方向に直線に伸びる。	3.5	浅い皿形	0.3	10Y6/1灰色細粒砂混粘土	なし	
S D1103	3-4 E-F	南北方向に直線に伸びる。	1.3以上	浅い皿形	0.2以上	2.5Y6/1黄灰色細粒砂混粘土	なし	

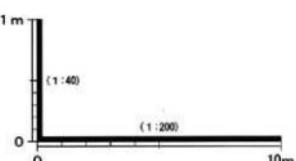
水田(水田)

水田1101

畦畔1101の西側で検出した。上面の標高はT.P.+11.1mで、2層を耕作土にしており、上面は耕作の痕跡が顕著に残る。また、人や動物の足跡が無数に確認できた。



- 2-3区**
- 0層 土壌
1層 10/4/1灰色細粒砂質粘土
2層 10/95/1灰色細粒砂質粘土
3層 57/6/2灰/オリーブ色細粒砂
4層 57/2/白灰色細粒～粗粒シルト
5層 57/3/1褐色細粒砂質粗粒シルト マンガン斑あり 上面第1面
6層 57/4/1灰/灰色細粒砂質粘土 上面第2面
7層 57/5/4/オリーブ色細粒シルト質粘土 上面第3面
8-1層 57/6/1灰/灰色細粒シルト質粘土 まばらに粗粒含む
8-2層 57/6/1灰/灰色細粒シルト質粘土
9層 ND/3褐色粘土
10層 10/95/1褐色細粒シルト質粘土
11層 ND/2/0褐色細粒砂質粘土 上面第4面
12層 2, 57/4/1灰/灰色細粒～中粗粒砂
13層 56/5/1青灰色粘土シルト
14層 10/93/1褐色細粒粘土質粗粒砂 上面第5面 序数表示第4層に相当
15層 10/95/1褐色細粒砂質粘土
16層 56/5/1褐色細粒砂質粗粒シルト質粘土 序数表示第6層に相当
17層 57/3/1褐色細粒砂質粘土 層内には鹿野アホヤ火山灰を含む 上面第6面 序数表示第7層に相当
18層 2, 57/2/1褐色細粒砂質シルト質粘土
19層 2, 57/4/1灰/灰色細粒シルト 菲教委第12層に相当



第2図 1~3区断面図

表2 畦畔1101・水田1101法量表

遺構番号	地 区	平面形状	幅 (m)	断面形状 深さ (m)	埋 土	出土遺物
畦畔1101	3~4E~F	南北方向に伸びる。	上幅0.9 下幅2.0	台形 高さ0.07	10YR4/4褐色細粒砂混粘土	なし
水田1101	3~4C~E	水田の西・南・北側は調査区分外。SD1101とSD1102に切られる。	東西 9.5m以上 南北 5.5m以下		10YR4/4褐色細粒砂混粘土	なし

第2面

T.P.+10.8m前後の4層上面で、古墳時代前期～中期の土坑15基(S K1201～1215)、溝5条(S D1201～1205)を検出した。

なお、第1面と同様、中央部は雨水用排水管などの現在の工事により掘削されており、遺構の検出はできなかった。

土坑(S K)

S K1201～1215

調査区の中央から南側で検出した。深さが0.3m以上を測り、また複数の埋土からなる土坑はS K1206とS K1215で、それ以外は深さ0.15m以下で浅く、埋土も単一層である。S K1203とS K1204からは土師器の破片が出土しているが、詳しい時期は不明である。しかし、S K1206から出土した古式土師器から、これらの遺構は古墳時代前期～中期に比定できる。

表3 S K1201～1215法量表

遺構番号	地 区	平面形状	径・幅 (m)	断面形状 深さ (m)	埋 土	出土遺物
S K1201	4E	南北方向に長い楕円形	長径12 短径1.0	浅い皿状 0.1	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし
S K1202	4D	円形	0.5	逆台形 0.1	10YR4/2灰褐色細粒砂混粘土	なし
S K1203	4E	南北方向に長い楕円形	長径14 短径1.35	浅い皿状 0.08	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	土師器の破片
S K1204	4D	円形	1.0	浅い皿状 0.1	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	土師器の破片
S K1205	4D	南北方向に長い楕円形	長径0.9 短径0.7	浅い皿状 0.1	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし
S K1206	4E~F	南北方向に長い楕円形 南側はS K1215に切られる	長径1.9 短径1.2	逆台形 0.3	上から10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土 (細粒シルトのブロック混入) 10YR5/3褐色細粒砂混粘土(黒含む) 10YR7/1明褐色細粒土質 細粒砂	古式土師器の破片
S K1207	4E	南北方向に長い楕円形	長径1.3 短径0.8	浅い皿状 0.1	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし
S K1208	4D	円形	0.85	浅い皿状 0.1	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし
S K1209	4D	東西方向に長い楕円形	長径1.45 短径1.2	浅い皿状 0.15	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし
S K1210	3~4E	平面形状は遺構の北側が現代の掘削により切り取られているため不明。SD1202を切る。	東西幅2.05	皿状 0.15	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし
S K1211	4D	東西方向に長い楕円形	長径0.8 短径0.5	皿状 0.05	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし
S K1212	3~4D	遺構の北側が現代の掘削により切り取られているため不明である。	東西幅1.3m	皿状 0.1	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし
S K1213	3E	円形	1.0	皿状 0.1	10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(細粒シルトのブロック混入)	なし

S K1214	3E・F	円形	0.4	皿状	0.1	10YR3/4暗褐色細粒砂質粘土（細粒なしシルトのブロック混入）
S K1215	4E・F	南北方向に長い不定形。北側でS K1215を切り、南側でS D1201を切る。	長径1.9 短径0.9	逆台形	0.35	上から10YR3/4暗褐色細粒砂質粘土なし（細粒シルトのブロック混入） 10YR5/1灰褐色細粒シルト質粘土（灰合む）75GY7/1明緑灰色粘土質粘土

溝(S D)

S D1201～1205

S D1201と1202は深さ0.05mで非常に浅く、埋土もシルトの単一層である。

S D1204とS D1205は深さ0.3～0.5mを測り比較的深く、埋土は砂とシルトが堆積し、常に流れがあったことを示している。

S D1201から出土した遺物は破片で図化できなかったが、その破片は壺で外面には太筋のタタキがあり、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての特徴をもつ。角閃石を含む生駒西麓産の胎土である。

表4 S D1201～1205法量表

遺構番号	地 区	平面形状	径・幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋 土	出土遺物
S D1201	1E・F	南北方向に直線に伸びる。0.8 北側はS K1215に切られ、 南側は調査区外。	0.8	皿状	0.05	10YR2/1白色粘土質細粒シルト	弥生土器と古式土器の破片
S D1202	3-E	南北から北東方向に直線に伸びる。遺構の北側はS K1210に切られ、さらに現代の削削により切り取られている。	1.25	皿状	0.05	10YR6/1褐色細粒シルト	なし
S D1203	4C・D	南北から北東方向に直線に伸びる。南側は調査区外。	1	逆台形	0.2	上から10YR7/1灰白色粘土質細粒シルト 10Y7/1灰白色細粒シルト	なし
S D1204	1D・E 2C・D	南北から北東方向に直線に伸びる。S D1205に切られる。北側は調査区外。南側は現代の削削により切り取られている。	3	逆台形	0.5	上から10YR7/4にぶい黄褐色細粒砂 ～粗粒砂 5Y5/2灰オリーブ色細粒シルト～粗粒シルト	なし
S D1205	1E	南北から北西方向に直線に伸びる。S D1204を切り東側と北側は調査区外。	0.7	逆台形	0.3	上から2.5Y7/1灰白色粘土質細粒シルト 5Y3/2黒褐色細粒砂粘土	なし

第3面

T.P.+10.7m前後の5層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

第4面

T.P.+10.3m前後の6・7層上面で、弥生時代前期の河川1条(N R1401)を検出した。

河川(N R)

N R1401

調査地のほぼ中央を南東から北西へ流れていたと推測できる。河川の上層にある5Y5/1黄灰色粘土層内からは弥生時代前期に比定できる土器(1～3)が出土した。1・2は壺の底部。3は口縁端部にキザミ目を施す壺である。

第5面

T.P.+9.5m前後の14層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。



第3図 1-1区N R1401出土遺物実測図

表5 NR1401法量表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋 土	出土遺物
NR1401	2~4C ~ F	南北から北西方向に伸びる。河川の西側は調査区外に至るため、形状は不明である。	東西幅10	~4~1.5	10Y6/1灰色細粒砂と粗粒砂のラミナ 25Y5/1 黄灰色粘土 25Y6/1 黄灰色粗粒砂 10Y5/1 黑色粘土 5Y4/1 黄灰色粗粒砂 5Y3/1 オリーブ色細粒砂シルトと粗粒砂のラミナ 25Y6/1 黄灰色粗粒砂と粗粒砂のラミナ 5G6/1 緑色細粒砂 N5/0 黄灰色粗粒砂 5Y4/1 黄灰色細粒シルト質粘土 10YR4/4 黄褐色粗粒砂質粘土 25Y4/1 黄灰色粘土 25Y5/3 黄褐色細粒シルト 25Y4/1 黄灰色粘土 10PG5/1 黄灰色細粒シルト 25Y3/2 黄褐色粘土 25Y4/1 黄灰色粗粒砂 N2/0 黑色粘土 5E5/1 黄灰色粘土		生土器(弥生時代後期)の破片

表6 NR1401出土遺物観察表

遺物番号 回収番号	器種	法量(cm)	形 态	色調	胎土	焼成	備考
1 六	弥生土器 甕 底部	底径 8.4	突出する平底。外面右上りのハケのちや上りのミガキを施す。内面はナゲ。	内外面25Y 7/2暗黄色	1~4mm程度 の砂粒含む	良好	
2 六	弥生土器 甕 底部	底径 7.6	突出する平底。内面に指圧痕がある。	内外面25Y 4/2暗灰黄色	1~4mm程度 の砂粒含む	良好	
3 六	弥生土器 甕 口縁部	口径 -	外反する口縁部。邊部は丸くなる。底部には削み目を施す。内外面ナゲ。	内外面10Y R5/6黄褐色	1mm程度 の砂粒含む	良好	

第6面

TP.+9.4m前後の15層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

第7面

TP.+9.3m前後の16層上面で調査を行い、縄文時代前期以前の土坑2基(S K1701・1702)を検出した。

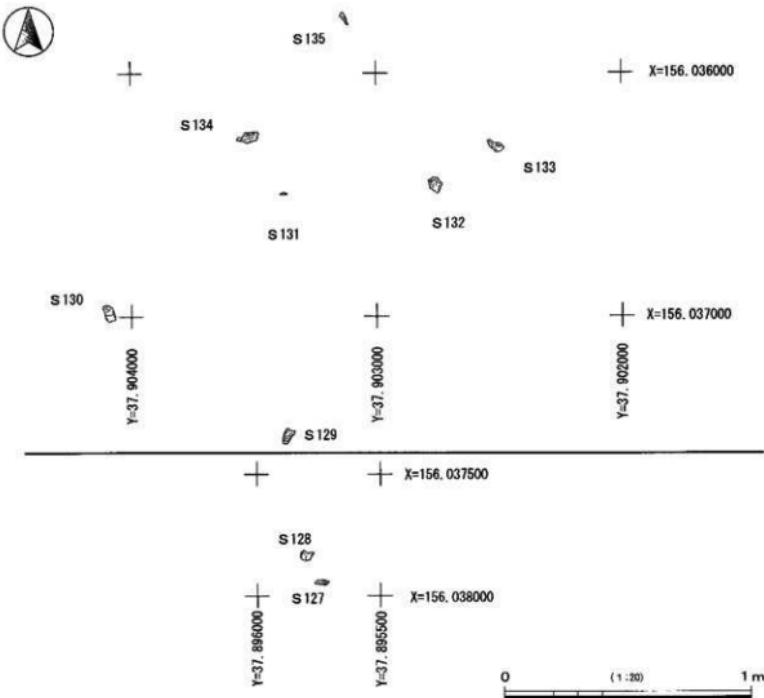
土坑(S K)

S K1701・1702

S K1701は北東側で検出した。平面形状隅丸の長方形を呈す。南西側の掘形には段がある。S K1702は南西側で検出した。遺構の南東側が調査区外に至るため規模は不明である。S K1701・1702ともに遺物の出土がなく、遺構の時期などの詳細は不明である。

表7 S K1701・1702法量表

遺構番号	地区	平面形状	径・幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋 土	出土遺物
S K1701	1-2D-E	東西方向に長い溝丸の長方形	長径5.5 幅径4.0	逆台形	0.4	75VR3/1 黒褐色粘土 (灰化物含む) 75Y6/1 黄褐色細粒シルト 10YR2/1 黑色粘土、N3/0 黄褐色粘土	なし
S K1702	4E-F	遺構の南東側が調査区外に至るため形状は不明である。	東 西 幅 1.1		0.7以上	5Y2/1 黑色粘土、75GY7/1 緑色細粒シルト質粘土 5Y7/6 黄褐色細粒シルト 10Y6/1 黄褐色細粒シルト質粘土	なし



第4図 1-1区17層上面遺物出土状況実測図

第8面

T.P.+9.25m前後の17層上面で調査を行い、後期旧石器時代の石器(S127~S135)が上面から出土した。遺物の詳細は「2)遺構に伴わない出土遺物」に記載した。

第9面

T.P.+9.15m前後の18・20層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

第10面

T.P.+8.9m前後の19・20層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

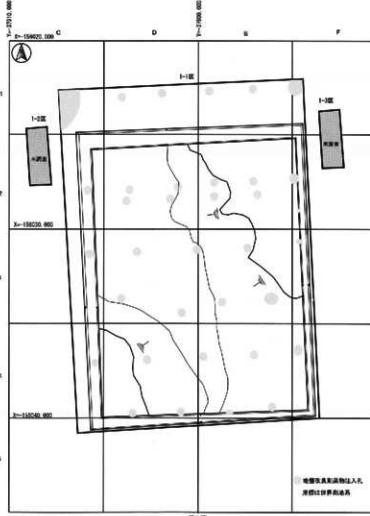
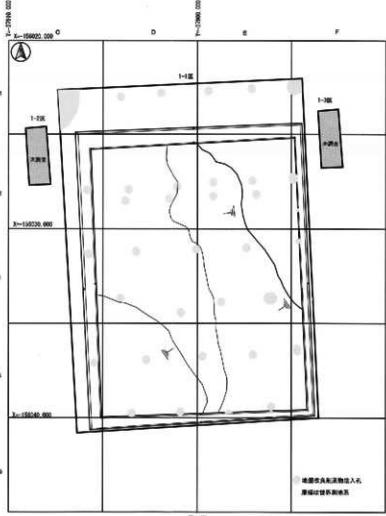
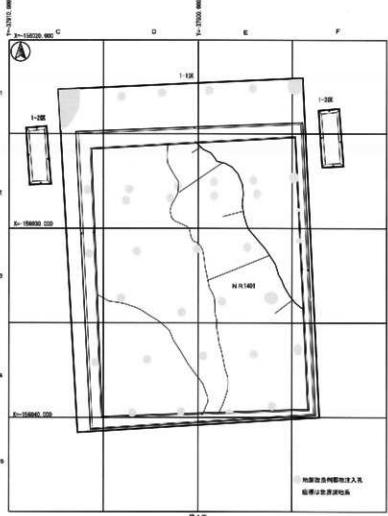
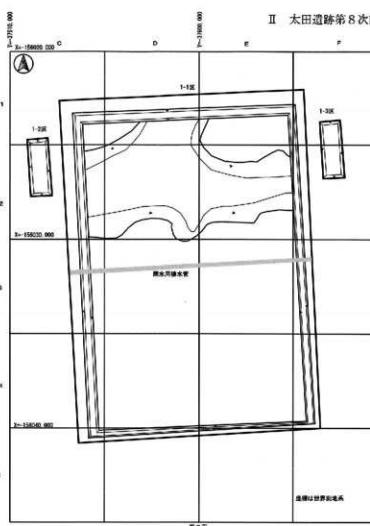
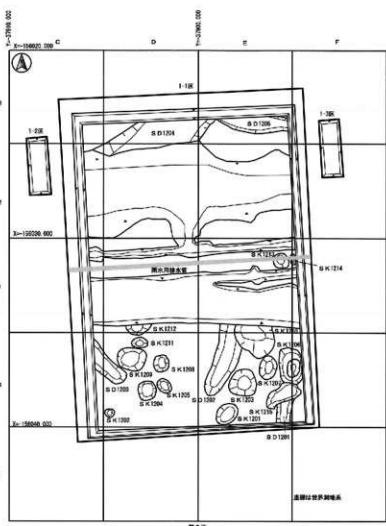
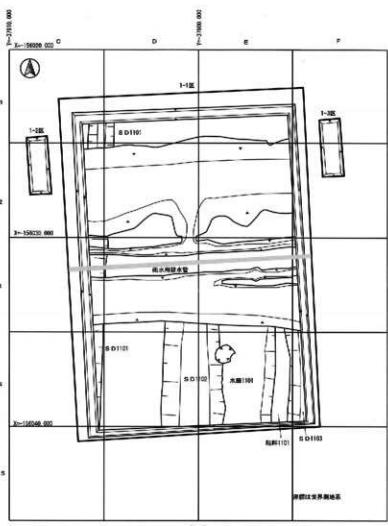
第11面

T.P.+8.5m前後の21層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

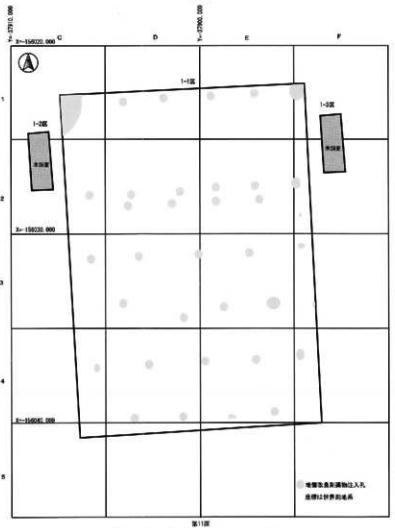
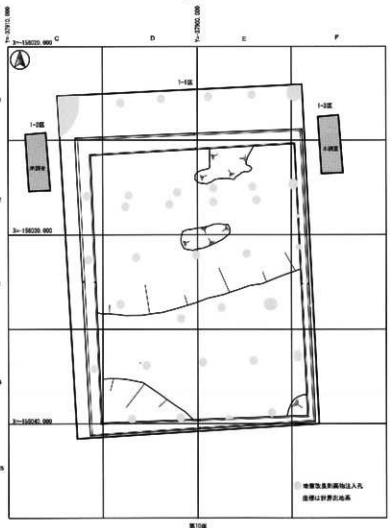
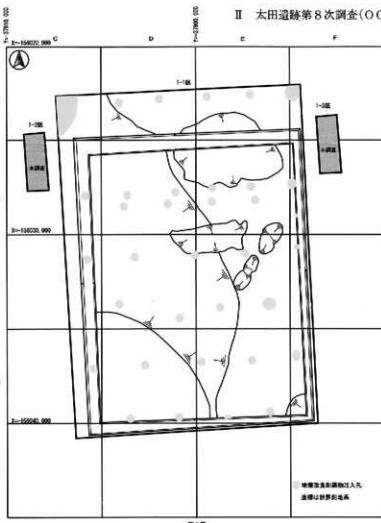
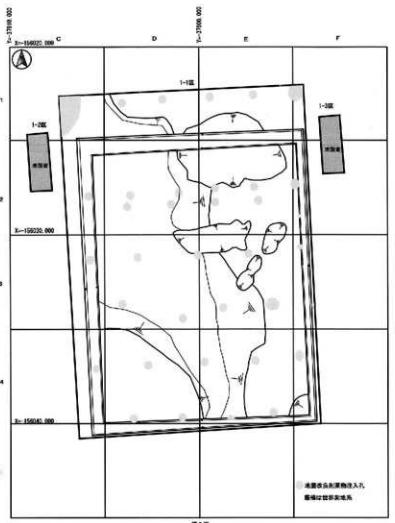
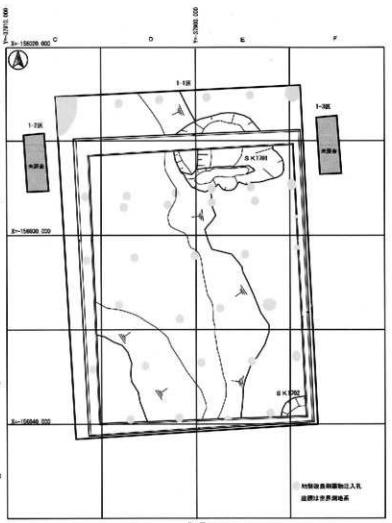
1-2区(規模4.0×1.1m)

1-1区の西側の調査区である。現地表下約2.3mまで調査を行った。北側と南側の一部に本来の堆積は残っていたが、ほぼ全城が現代の掘削により除去されていた。T.P.+10.8m以下では、1-1区で検出したNR1401と同一の砂層を確認した。

1-3区(規模4.0×1.1m)



第5図 1区第1~6面平面図



第6図 1区第7~11面平面図

1-1区の東側の調査区である。現地表下約2.3mまで調査を行った。北側と南側の一部に本来の堆積は残っていたが、ほぼ全城が現代の掘削により除去されていた。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

2区（規模24.8×4.8m）

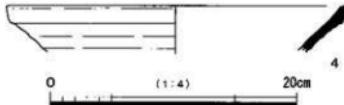
第1面

T.P.+11.2m前後の5層上面で、鎌倉時代に比定される溝3条（SD2101～2103）、畦畔3条（畦畔2101～2103）、水田4箇（水田2101～2104）を検出した。

溝（SD）

SD2101～2103

溝は南北方向に伸びる平面形状で、3本の間隔はそれぞれ3.5mである。SD2013からは東播系の須恵器鉢（4）が出土した。



第7図 2区SD2103出土遺物実測図

第8表 SD2101～2103法量表

遺構番号	地区	平面形状	幅（m）	断面形状	深さ（m）	埋 土	出土遺物
SD2101	13-14F-G 南北方向に直線に伸びる。南北は調査区外。	3.3	逆台形	0.3	10YRS/Sにい青褐色細粒砂・土器底、須恵器などの破片混粘土		
SD2102	13-14E-F 南北方向に直線に伸びる。南北は調査区外。	1.7	逆台形	0.4	10YRS/Sにい青褐色細粒砂・土器底の小皿混粘土		
SD2103	13-14D 南北方向に直線に伸びる。南北は調査区外。	3.2	逆台形	0.3	Jから10YR5/1 黄褐色粗粒砂混粘土 10YR5/1 黑褐色粗粒砂混粘土	土器底、須恵器、瓦器の破片	

表9 SD2103出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器種	法量（cm）	形 独	色調	胎土	焼成	備考
4 六	須恵器 鉢 口縁部	口径27.2 外反ぎみに直線に伸びる口縁部。	端部に面を持つ。内外面均軽ナメ。	内面10DG7/1 1-3mm程度、良好 別青灰色 面10BG6/1 青灰色	外の砂粒含む		
		途切れ水口となる。	上げる。	面10BG6/1 青灰色			

水田（水田）

水田2101～2104

調査地の東側で検出した。畦畔2103はやや南南西から北北東に伸び、条里水田からは方位がずれる形状である。水田2104の西側はSD2101により切られていた。この溝より西には水田は広がっていないことを確認した。

表10 畦畔2101～2103・水田2101～2104法量表

遺構番号	地区	平面形状	幅（m）	断面形状	深さ（m）	埋 土	出土遺物
畦畔2101	13-14H-I, 14I	東西方向に伸びる。西と東が上部0.3 下部0.7	台形	高さ0.07	水田耕作土である5層を盛り上げる。		なし
畦畔2102	14II	南北方向に伸びる。畦畔2101 上部0.25 下部0.4 に取り付く。	台形	高さ0.07	水田耕作土である5層を盛り上げる。		なし
畦畔2103	13-14G-H	南北方向に伸びる。 上部0.3 下部0.7	台形	高さ0.06	水田耕作土である5層を盛り上げる。		なし
水田2101	13-14H-I	畦畔2101と畦畔2103で区画。 北東側は調査区外。	東西5.5m 南北3.5m		5層上面を耕作土とする。		なし
水田2102	14H-I	畦畔2101と畦畔2102で区画。 南北側は調査区外。	東西2.0m 南北3.5m		5層上面を耕作土とする。		
水田2103	14G-H	畦畔2101, 畦畔2102, 畦畔2103で、区画。 南側は調査区外。	東西3.0m 南北1.0m		5層上面を耕作土とする。		
水田2104	13-14G, 13H	畦畔2103とSD2101で区画。 南側と北側は調査区外。	東西3.0m 南北幅5.0		5層上面を耕作土とする。		

第2面

T.P.+11.0m前後の6層上面で、古墳時代前期～中期の土坑1基(S K2201)を検出した。

土坑(S K)

S K2201

調査地の西側で検出した。この遺構以外には検出した遺構はなかった。

表11 S K2201法量表

遺構番号	地区	平面形状	径(m)	断面形状(深さ(m))	埋 土	出土遺物
S K2201	14D	円形	0.3	逆台形 0.5	SY2/1黒色粘土	なし

第3面

T.P.+10.8m前後の7層上面で、弥生時代後期の土坑14基(S K2301～2314)、河川1条(N R2301)を検出した。

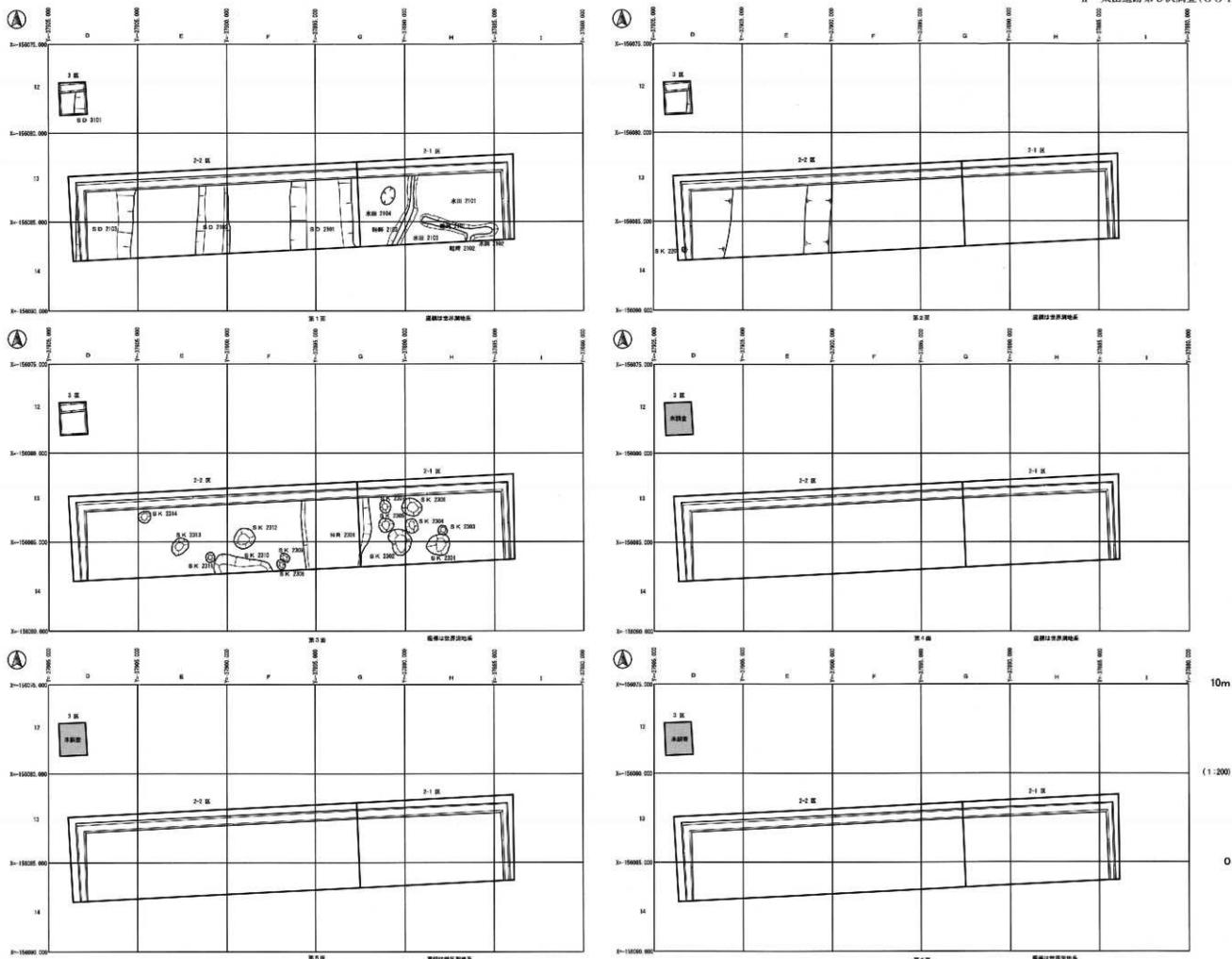
土坑(S K)

S K2301～2314

ほぼ全城で検出した。S K2301は平面形状が隅丸の長方形で、それ以外は円形あるいは楕円形である。全ての土坑は深さが0.1m以下で、非常に浅い。

表12 S K2301～2314法量表

遺構番号	地区	平面形状	径・幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋 土	出土遺物
S K2301	13-14H	楕円形	長径1.2 短径1.1	皿状	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2302	13-14G・H	楕円形	長径1.5 短径1.05	皿状	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2303	13II	円形	0.5	皿状	0.05	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2304	13H	楕円形	長径0.8 短径0.65	皿状	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2305	13G	楕円形	長径0.85 短径0.5	皿状	0.05	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2306	13G・H	楕円形	長径1.15 短径1.0	皿状	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2307	13G	楕円形	長径0.65 短径0.6	皿状	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2308	14F	円形	0.3	逆台形	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2309	14F	円形	0.3	逆台形	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2310	14E・F	隅丸の長方形。 遺構の南側は 開き区外。	東西幅3.25		0.15	N4/0灰色細粒砂混粘土	なし
S K2311	14E	円形	0.55	皿状	0.15	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2312	13-14F	円形	1.2	逆台形	0.05	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2313	13-14E	楕円形	長径1.0 短径0.9	逆台形	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし
S K2314	13E	円形	0.75	皿状	0.1	10YR4/6褐色細粒砂混粘土 (粗粒シルトのブロックが混入)	なし



第8図 2・3区1~6面平面図

河川（N R）

N R 2301

ほぼ中央で検出した。平面形状は南北方向に直線に伸びる。この河川は1区では検出してない。

表13 N R 2301法量表

遺構番号	地区	平面形状	幅（m）	断面形状	深さ（m）	埋 土	出土遺物
N R 2301	I3-I4F-G	南北方向に直線に伸びる。	5.5	逆台形	0.4	10YR6/6明黄褐色粗粒砂～粘土 粒砂	なし

第4面

T.P.+10.2m前後の11層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

第5面

T.P.+9.8m前後の14層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

第6面

T.P.+9.3m前後の17層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

3区

第1面

T.P.+11.3m前後の5層上面で、鎌倉時代に比定される溝1条（S D 3101）を検出した。

溝（S D）

S D 3101

この溝は2区で検出した溝（S D 2103）と同じ溝である。

表14 S D 3101法量表

遺構番号	地区	平面形状	幅（m）	断面形状	深さ（m）	埋 土	出土遺物
S D 3101	12D	南北方向に直線に伸びる。崖 傍の北、東、西側は調査区外	0.7以上		0.25以上	10YR5/1褐色粗粒砂泥灰土	なし

第2面

T.P.+11.0m前後の6層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

第3面

T.P.+10.8m前後の7層上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。

2) 遺構に伴わない出土遺物

1区

15層からは縄文時代前期以前に比定できる石器31点（S 001～S 031）【石鏃1点、石核3点、剥片27点】が出土した。出土した石器のほとんどは南北側の4D-16・17・22区からの出土である。

このうち圓化したものは石鏃1点（S 030）、石核（S 002・S 011・S 018）である。

S 030は四基無茎式の石鏃である。長さ1.8cm、重量1.0gを測る。基部の抉りは浅く、逆刺は緩やかに仕上げられている。

16層からは石器95点（S 032～S 126）【石鏃1点、石核4点、剥片90点】が出土した。S 120～S 126は4E-25区、それ以外は4D-12・16・17・21区からの出土である。

このうち圓化したものは石鏃1点（S 097）、石核（S 071・S 124～S 126）である。

S 097は四基無茎式の石鏃である。長さ2.4cm、重量1.0gを測る。平面形状は幅広の正三角形に近い形で基部の逆刺は尖る。

17層からは旧石器時代に比定できる石器25点（S 127～S 151）【ナイフ形石器4点、石核4点、

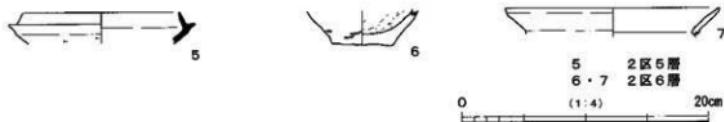
剥片17点】が出土した。S127・S128は4E-15区の17層上面(T.P.+9.06m)、S129～S135は4D-2・6・7・8区の17層上面(T.P.+9.35m)からの出土で、その高低差は29cmを測り、南西側から南東側と北側に向い徐々に低くなる地層であった。また、S136は2E-11区、S137～S150は4D-17区、S151は4E-20区の17層内からの出土である。

このうち図化したものはナイフ形石器4点(S136、S142、S148、S149)、石核3点(S130、S133、S134)、剥片6点(S127～S129、S131・S132、S135)である。

S136、S142、S148は細身の柳葉を呈し、一側縁だけに調整剥離を行う。S136は長さ3.9cm、重量3.0gを測る。類例には八尾南旧石器第3地点ナイフ形石器A1類(298)がある。S142は長さ3.7cm、重量3.0gを測る。類例には八尾南旧石器第3地点ナイフ形石器A1類(60)がある。S148は長さ6.0cm、重量8.0gを測る。S149は2側縁に調整剥離が認められ、刃部が斜めに付いている。基部は平坦である。S149は長さ7.9cm、重量20.0gを測る。類例には八尾南旧石器第3地点ナイフ形石器B1類(292)がある。

2区

5層からは古墳時代後期に比定できる須恵器杯身(5)が出土した。また、6層からは弥生時代後期に比定できる甕(6)と古墳時代初頭に比定できる甕(7)が出土した。



第9図 2区5・6層出土遺物実測図

表15 2区5・6層出土遺物観察表

遺物番号 回収番号	器種	法量(cm)	形態	色調	胎土	焼成	備考
5 六	須恵器 杯身 口縁部	口径 12.7	内縁して立ち上がる口縁部、端部は尖りぎみに終る。内外面回転ナデ。内外面IGG7/1 明黄褐色	1~2mm程度の砂粒含む	良好		
6 六	弥生土器 甕 底部	底径 5.0	突出する平底。外面右上にタキを施す。内面はナデ。捺压痕が残る。 内外面IGR7/2 にぶい黄褐色	1~3mm程度の砂粒含む	良好		
7 六	古式土器 甕 口縁部	口径 17.4	「く」の字に屈曲する体部から外反する口縁部。端部はつまみ上げ尖って終る。内外面ナデ。 内面IGYR7/6 明黄褐色 外面SYR5/8明赤褐色	1~2mm程度の砂粒含む	良好		

表16 石器観察表I

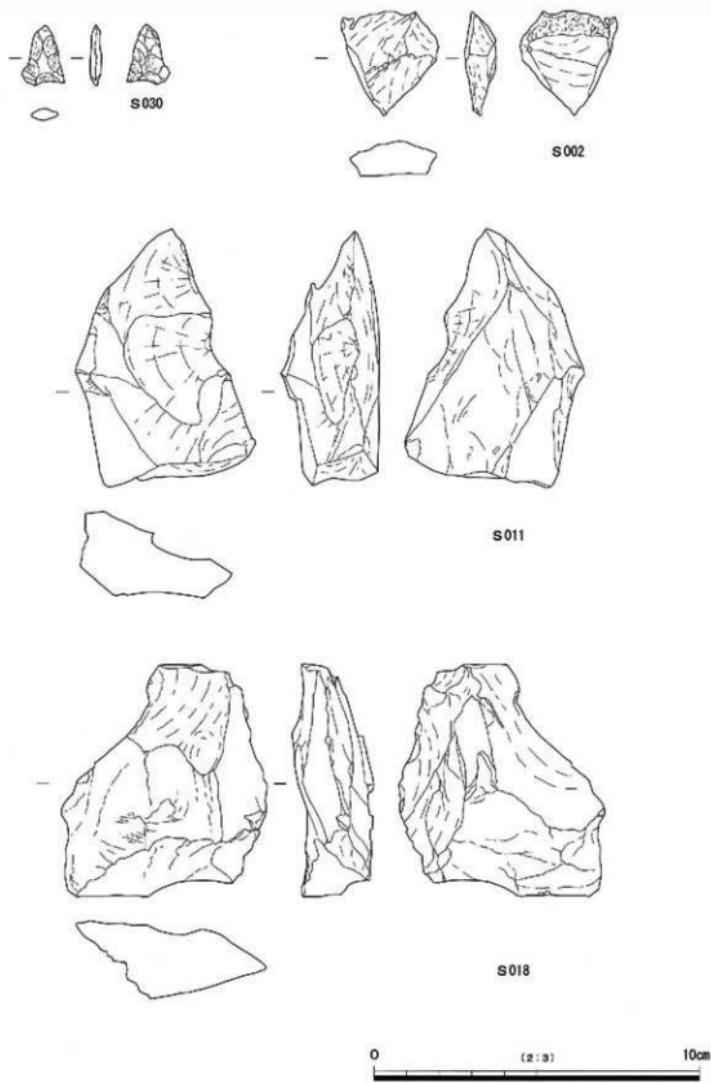
番号	調査区	地区	層	器種	幅 (cm)	長さ (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	実測図	写真図版
S001	1-1区		南側溝 15層	剥片	2.0	20	0.4	1.0	サヌカイト		
S002	1-1区	2K-6	15層	石核	2.8	3.1	1.1	8.0	サヌカイト	第10回	図版七
S003	1-1区	4D-16	15層	剥片	3.6	23	0.6	5.0	サヌカイト		
S004	1-1区	4D-16	15層	剥片	2.7	19	0.6	3.0	サヌカイト		
S005	1-1区	4D-16	15層	剥片	4.1	22	0.8	6.0	サヌカイト		
S006	1-1区	4D-16	15層	剥片	3.1	39	1.0	6.0	サヌカイト		
S007	1-1区	4D-16	15層	剥片	1.6	3.0	1.4	17.0	サヌカイト		
S008	1-1区	4D-16	15層	剥片	6.0	23	0.9	10.0	サヌカイト		図版七
S009	1-1区	4D-16	15層	剥片	5.3	31	1.6	18.0	サヌカイト		
S010	1-1区	4D-16	15層	剥片	6.0	40	1.4	22.0	サヌカイト		
S011	1-1区	4D-16	15層	石核	4.7	7.6	2.5	78.0	サヌカイト	第10回	図版七
S012	1-1区	4D-17	15層	剥片	3.1	26	0.5	3.0	サヌカイト		
S013	1-1区	4D-17	15層	剥片	4.6	47	2.0	39.0	サヌカイト		
S014	1-1区	4D-17	15層	剥片	7.3	30	1.2	21.0	サヌカイト		
S015	1-1区	4D-17	15層	剥片	8.2	45	1.4	48.0	サヌカイト		
S016	1-1区	4D-17	15層	剥片	9.2	48	1.6	49.0	サヌカイト		
S017	1-1区	4D-17	15層	剥片	5.2	7.8	2.4	102.0	サヌカイト		
S018	1-1区	4D-17	15層	石核	6.0	7.2	2.8	82.0	サヌカイト	第10回	図版七
S019	1-1区	4D-17	15層	剥片	9.4	6.7	1.5	72.0	サヌカイト		
S020	1-1区	4D-22	15層	剥片	2.5	18	0.6	2.0	サヌカイト		
S021	1-1区	4D-22	15層	剥片	3.2	24	0.6	3.0	サヌカイト		
S022	1-1区	4D-22	15層	剥片	3.8	17	0.7	3.0	サヌカイト		
S023	1-1区	4D-22	15層	剥片	4.3	25	0.7	3.0	サヌカイト		
S024	1-1区	4D-22	15層	剥片	4.1	28	0.6	6.0	サヌカイト		
S025	1-1区	4D-22	15層	剥片	2.0	5.0	1.3	9.0	サヌカイト		
S026	1-1区	4D-22	15層	剥片	5.7	27	1.0	10.0	サヌカイト		
S027	1-1区	4D-22	15層	剥片	1.5	0.8	0.2	1.0	サヌカイト		
S028	1-1区	4D-22	15層	剥片	1.9	0.9	0.4	1.0	サヌカイト		
S029	1-1区	4D-22	15層	剥片	1.8	1.3	0.2	1.0	サヌカイト		
S030	1-1区	4D-22	15層	凹基無茎式石核	1.3	18	0.3	1.0	サヌカイト	第10回	図版七
S031	1-1区	4D-22	15層	剥片	2.8	15	1.0	3.0	サヌカイト		
S032	1-1区	4D-12	16層	剥片	1.3	21	0.5	1.0	サヌカイト		
S033	1-1区	4D-12	16層	剥片	2.0	29	0.4	2.0	サヌカイト		
S034	1-1区	4D-12	16層	剥片	2.8	21	0.5	2.0	サヌカイト		
S035	1-1区	4D-12	16層	剥片	4.7	23	0.6	4.0	サヌカイト		
S036	1-1区	4D-12	16層	剥片	7.1	43	1.3	31.0	サヌカイト		
S037	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.3	10	0.7	1.0	サヌカイト		
S038	1-1区	4D-16	16層	剥片	0.7	0.7	0.3	1.0	サヌカイト		
S039	1-1区	4D-16	16層	剥片	0.7	07	0.2	1.0	サヌカイト		
S040	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.2	0.6	0.2	1.0	サヌカイト		
S041	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.1	0.5	0.3	1.0	サヌカイト		
S042	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.2	0.8	0.3	1.0	サヌカイト		
S043	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.3	0.5	0.4	1.0	サヌカイト		
S044	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.1	1.0	0.3	1.0	サヌカイト		
S045	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.3	1.1	0.4	1.0	サヌカイト		
S046	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.4	0.8	0.4	1.0	サヌカイト		
S047	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.3	0.8	0.2	1.0	サヌカイト		
S048	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.5	1.0	0.3	1.0	サヌカイト		
S049	1-1区	4D-16	16層	剥片	0.9	1.6	0.4	1.0	サヌカイト		
S050	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.4	1.0	0.4	1.0	サヌカイト		
S051	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.3	1.5	0.2	1.0	サヌカイト		
S052	1-1区	4D-16	16層	剥片	1.6	12	0.2	1.0	サヌカイト		

表17 石器観察表II

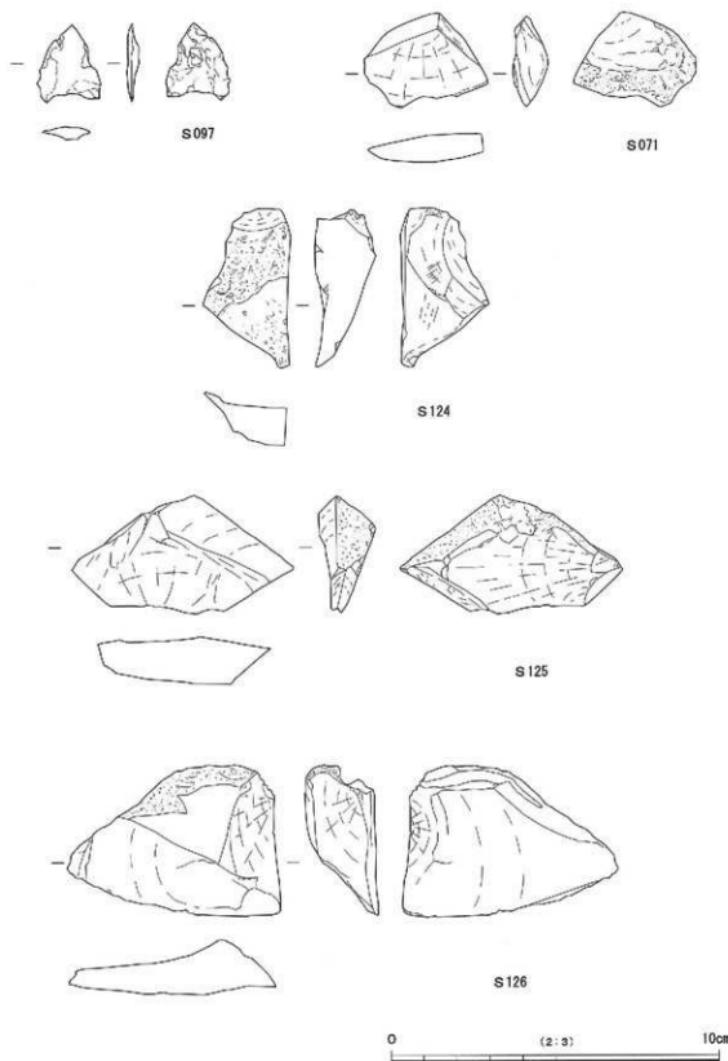
番号	調査区	地区	層	器種	幅 (cm)	長さ (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	実測図	写真図版
S053	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	1.7	0.7	0.3	1.0	サヌカイト		
S054	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.0	0.9	0.3	1.0	サヌカイト		
S055	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	1.8	1.0	0.5	1.0	サヌカイト		
S056	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	1.6	1.3	0.6	1.0	サヌカイト		
S057	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	1.8	1.2	0.5	1.0	サヌカイト		
S058	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	1.9	1.4	0.3	1.0	サヌカイト		
S059	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	1.6	1.7	0.4	1.0	サヌカイト		
S060	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.1	1.6	0.3	1.0	サヌカイト		
S061	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.2	1.4	0.6	1.0	サヌカイト		
S062	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.9	0.9	0.5	1.0	サヌカイト		
S063	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.2	0.5	0.5	1.0	サヌカイト		
S064	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	1.6	1.7	0.3	1.0	サヌカイト		
S065	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.4	1.4	0.6	2.0	サヌカイト		
S066	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.5	1.4	0.7	2.0	サヌカイト		
S067	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.4	1.9	0.8	2.0	サヌカイト		
S068	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	2.5	1.6	0.4	2.0	サヌカイト		
S069	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	3.8	1.8	0.5	3.0	サヌカイト		
S070	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	3.8	2.2	0.9	8.0	サヌカイト		
S071	1-1区	4 D - 16	16層	石核	3.8	3.0	1.0	9.0	サヌカイト	第11図	図版八
S072	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	4.1	2.2	1.1	8.0	サヌカイト		
S073	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	4.0	2.1	0.7	6.0	サヌカイト		
S074	1-1区	4 D - 16	16層	剥片	3.4	3.3	1.0	7.0	サヌカイト		
S075	1-1区	4 D - 17	16層	剥片	4.2	3.3	1.8	11.0	サヌカイト		
S076	1-1区	4 D - 17	16層	剥片	1.5	0.7	0.3	1.0	サヌカイト		
S077	1-1区	4 D - 17	16層	剥片	1.8	0.9	0.2	1.0	サヌカイト		
S078	1-1区	4 D - 17	16層	剥片	4.5	1.6	0.7	4.0	サヌカイト		
S079	1-1区	4 D - 17	16層	剥片	4.0	2.3	0.7	6.0	サヌカイト		
S080	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	4.5	3.0	1.1	11.0	サヌカイト		
S081	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	1.1	0.8	0.2	1.0	サヌカイト		
S082	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	1.3	6.9	0.2	1.0	サヌカイト		
S083	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	1.1	1.0	0.3	1.0	サヌカイト		
S084	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	1.4	0.8	0.7	1.0	サヌカイト		
S085	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	1.6	1.4	0.3	1.0	サヌカイト		
S086	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	1.9	1.2	0.2	1.0	サヌカイト		
S087	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.2	1.0	0.5	1.0	サヌカイト		
S088	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.3	1.2	0.4	1.0	サヌカイト		
S089	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.2	0.9	0.7	1.0	サヌカイト		
S090	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.8	1.2	0.3	1.0	サヌカイト		
S091	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.0	1.3	0.4	1.0	サヌカイト		
S092	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	1.9	1.3	0.3	1.0	サヌカイト		
S093	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.1	1.2	0.4	1.0	サヌカイト		
S094	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	1.4	2.3	0.4	1.0	サヌカイト		
S095	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.6	1.7	0.5	2.0	サヌカイト		
S096	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.7	1.8	0.5	2.0	サヌカイト		図版八
S097	1-1区	4 D - 21	16層	凹基無光式石錐	1.9	2.4	0.4	1.0	サヌカイト	第11図	図版八
S098	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.3	1.3	0.4	1.0	サヌカイト		
S099	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.6	1.9	0.8	2.0	サヌカイト		
S100	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.3	2.2	0.6	2.0	サヌカイト		
S101	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.0	2.1	0.4	2.0	サヌカイト		
S102	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.9	1.7	0.7	2.0	サヌカイト		
S103	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.0	2.6	0.5	3.0	サヌカイト		
S104	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	2.5	2.1	0.9	2.0	サヌカイト		図版八

表18 石器観察表III

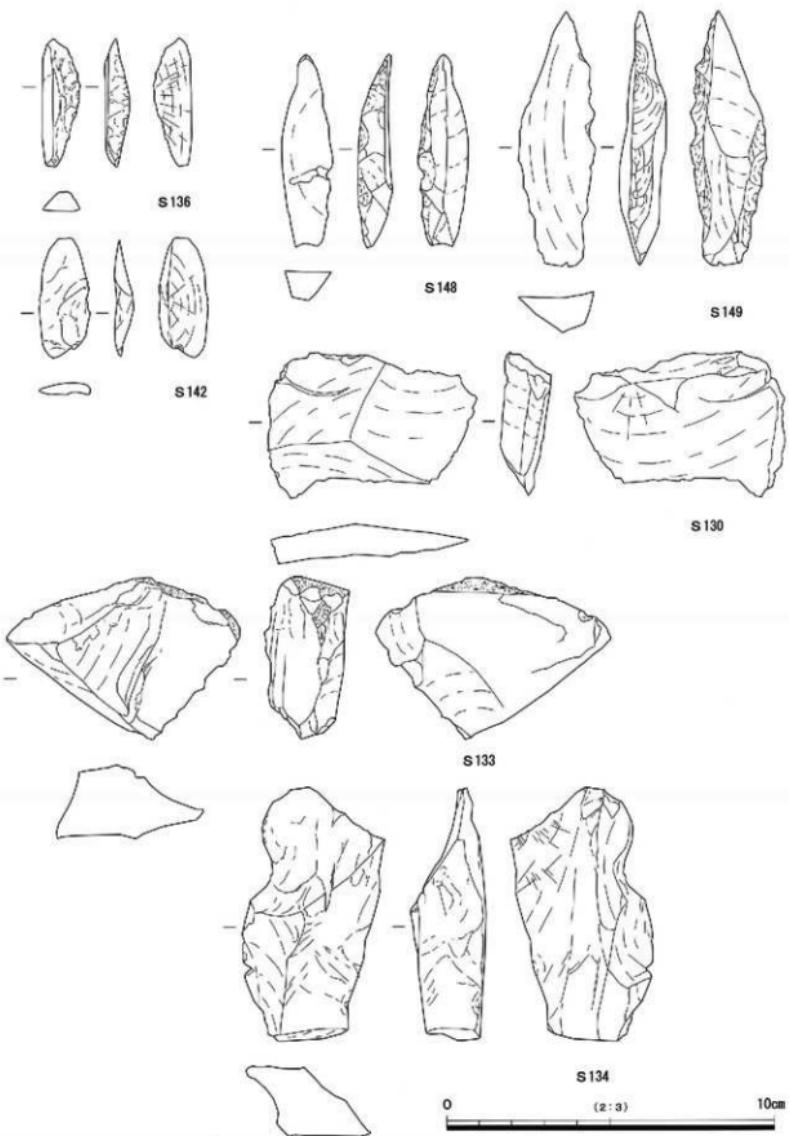
番号	調査区	地区	層	器種	幅 (cm)	長さ (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	実測図	写真図版
S105	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	28	19	0.7	20	サヌカイト		国版八
S106	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	21	27	1.0	40	サヌカイト		国版八
S107	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	26	26	0.6	3.0	サヌカイト		国版八
S108	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	27	23	0.7	3.0	サヌカイト		
S109	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	35	19	1.4	8.0	サヌカイト		
S110	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	43	17	0.5	4.0	サヌカイト		国版八
S111	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	22	39	1.1	7.0	サヌカイト		
S112	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	42	22	0.5	5.0	サヌカイト		
S113	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	39	22	0.6	4.0	サヌカイト		
S114	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	31	26	0.7	5.0	サヌカイト		
S115	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	44	26	1.2	11.0	サヌカイト		
S116	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	39	27	1.0	10.0	サヌカイト		
S117	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	31	72	1.1	17.0	サヌカイト		
S118	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	45	50	0.9	19.0	サヌカイト		
S119	1-1区	4 D - 21	16層	剥片	58	33	1.7	22.0	サヌカイト		
S120	1-1区	4E - 25	16層	剥片	50	61	1.4	26.0	サヌカイト		
S121	1-1区	4E - 25	16層	剥片	36	16	0.8	3.0	サヌカイト		
S122	1-1区	4E - 25	16層	剥片	38	25	0.7	5.0	サヌカイト		
S123	1-1区	4E - 25	16層	剥片	40	30	0.7	7.0	サヌカイト		
S124	1-1区	4E - 25	16層	石核	34	50	2.0	22.0	サヌカイト	第11回	
S125	1-1区	4E - 25	16層	石核	67	31	1.9	31.0	サヌカイト	第11回	国版八
S126	1-1区	4E - 25	16層	石核	65	47	2.2	61.0	サヌカイト	第11回	国版八
S127	1-1区	4E - 15	17層	上面石器001 剥片	22	41	1.2	8.0	サヌカイト	第13回	国版一〇
S128	1-1区	4E - 15	17層	上面石器002 剥片	52	37	1.4	17.0	サヌカイト	第13回	
S129	1-1区	4 D - 12	17層	上面石器003 剥片	69	43	1.5	37.0	サヌカイト	第13回	国版一〇
S130	1-1区	4 D - 6	17層	上面石器004 石核	63	44	1.5	37.0	サヌカイト	第12回	
S131	1-1区	4 D - 7	17層	上面石器005 剥片	20	31	0.7	3.0	サヌカイト	第13回	国版一〇
S132	1-1区	4 D - 8	17層	上面石器006 剥片	38	62	1.1	27.0	サヌカイト	第13回	国版一〇
S133	1-1区	4 D - 8	17層	上面石器007 石核	72	50	2.3	73.0	サヌカイト	第12回	
S134	1-1区	4 D - 7	17層	上面石器008 石核	43	7.9	2.4	60.0	サヌカイト	第12回	国版九
S135	1-1区	4 D - 2	17層	上面石器009 剥片	56	52	1.2	26.0	サヌカイト	第13回	国版一〇
S136	1-1区	2 E - 11	17層	ナイフ形石器	12	39	0.6	3.0	サヌカイト	第12回	国版九
S137	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	18	14	0.5	1.0	サヌカイト		
S138	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	26	12	0.6	2.0	サヌカイト		
S139	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	32	23	0.7	4.0	サヌカイト		
S140	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	37	21	0.9	6.0	サヌカイト		
S141	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	31	32	1.0	9.0	サヌカイト		
S142	1-1区	4 D - 17	17層	ナイフ形石器	15	3.7	0.6	3.0	サヌカイト	第12回	国版九
S143	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	35	23	0.6	4.0	サヌカイト		
S144	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	38	28	1.4	12.0	サヌカイト		
S145	1-1区	4 D - 17	17層	石核	40	34	1.7	19.0	サヌカイト	第13回	
S146	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	46	41	1.3	20.0	サヌカイト		
S147	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	22	55	0.6	6.0	サヌカイト		
S148	1-1区	4 D - 17	17層	ナイフ形石器	14	60	1.1	8.0	サヌカイト	第12回	国版九
S149	1-1区	4 D - 17	17層	ナイフ形石器	24	7.9	1.3	20.0	サヌカイト	第12回	国版九
S150	1-1区	4 D - 17	17層	剥片	32	68	0.9	12.0	サヌカイト		
S151	1-1区	4E - 20	17層	剥片	13	13	0.8	1.0	サヌカイト		



第10図 1-1区15層出土遺物実測図

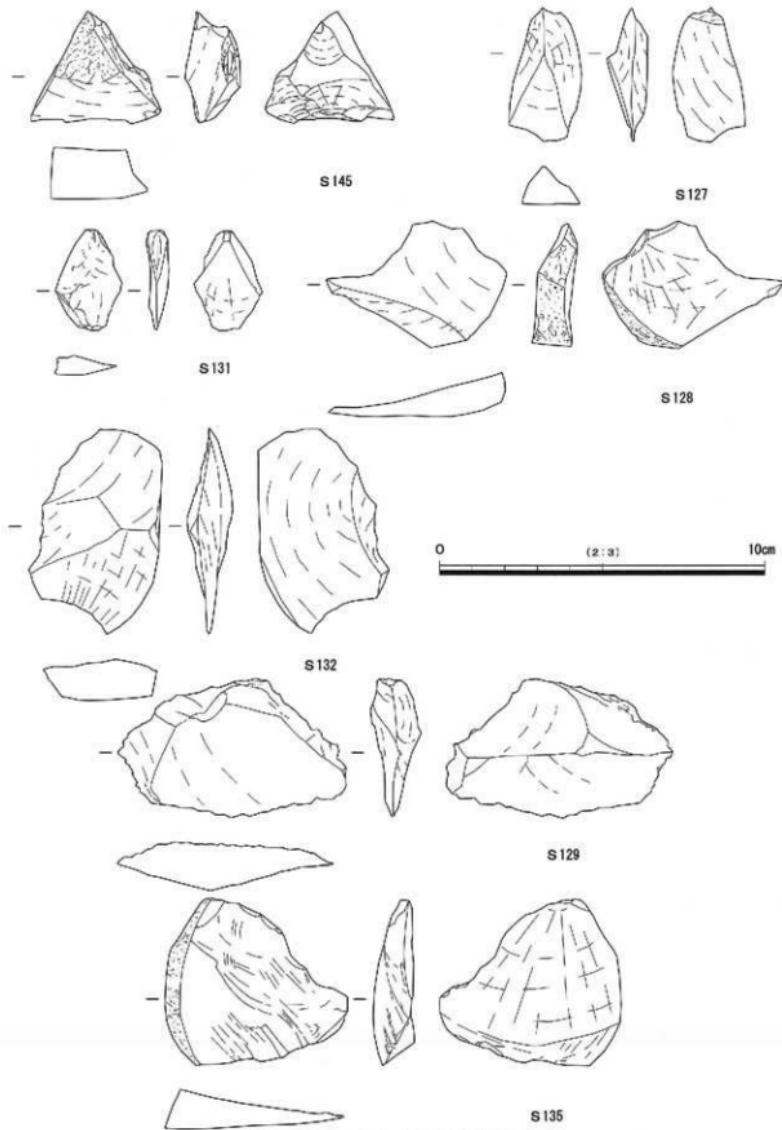


第11図 1-1区16層出土遺物実測図



* 第12図 1-1区17層出土遺物実測図①

II 太田遺跡第8次調査 (OOT 2006-8)



第13図 1-1区17層出土遺物実測図②

第3章 まとめ

今回の調査では、鎌倉時代、古墳時代前期～中期、弥生時代後期、弥生時代前期、縄文時代前期の遺構の検出および石器が出土した。また、後期旧石器時代の遺物が出土した。

鎌倉時代の遺構は、水田と溝で、生産域が広がっていたことが判明した。水田を削る形で溝が構築されていることから、水田であった場所を一時的に水路として利用していた可能性が高いと考えられる。同時期の遺構は、東隣で市教委が行った調査でも検出している。この調査では、井戸を検出していることから、今回の調査地より東側に当時の集落(居住域)が存在している可能性が高いと思われる。

古墳時代前期～中期の遺構は1区で検出したが、2区では検出していない。のことから1区より北側に集落が存在している可能性が高い。

弥生時代後期の遺構は2区のみで検出した。同時期の居住域および生産域は、今回の調査地から西側約200mの財団法人大阪府文化財センター八尾南遺跡調査地で検出している。また、北西側約200mで研究会が実施した同遺跡第21次調査でも居住域を検出していることから、同時期の集落が付近一帯に広がっていると推測できる。

弥生時代前期の遺構は1区で河川を検出した。この河川は南東から北西方向に流れているが、2区では遺構の存在が確認できなかったことから、東側に蛇行して流れていると推測できる。埋土からは少量の遺物が出土したことから、近隣に集落が存在していると思われる。

縄文時代前期以前に比定される土坑を1区で検出しが、遺物の出土はなかったため、詳しい時期の特定は困難であった。しかし、1区の15・16層からは縄文時代前期以前に相当する凹基無茎式石鏟が出土していることから、この時期の遺構も存在している可能性が高いと推測できる。

後期旧石器時代の石器は1区の17層から出土した。この地層は東隣で市教委が調査した87-1調査区の第12層に相当し、この地層からは旧石器時代のサヌカイト製のナイフ形石器等が出土している。

ナイフ形石器(S136)は4E区からの出土で、市教委調査地点からの距離は約10mと最も近接している。また、南西側約10mの4D区からもナイフ形石器等が出土していることから、石器の散布は西側にも広がっていることが判明した。

参考文献・引用文献

- ・福田英人 1989「八尾南遺跡－旧石器出土第3地点－大阪府文化財調査報告書第36輯」大阪府教育委員会
- ・道 素 1994「3. 太田遺跡(92-585)の調査」「八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市教育委員会
- ・吉田野乃 1994「4. 太田遺跡(93-81)の調査」「八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市教育委員会
- ・趙 哲済他 1995.3「大阪市平野区 長原・瓜破遺跡発掘調査報告書Ⅶ」1988年度大阪市長吉瓜破地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書 財團法人 大阪市文化財協会
- ・西村公助 1996「IV 太田遺跡第2次調査(OOT95-2)」「財團法人八尾市文化財調査研究会報告53」(財)八尾市文化財調査研究会

II 太田遺跡第8次調査（OOT 2006-8）

- ・酒 嘉 1997「3. 太田遺跡(96-266)の調査」『八尾市内遺跡平成8年度発掘調査報告書1』八尾市教育委員会
- ・趙 哲済他 1997.3『大阪市平野区 長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅸ』 1989年度大阪市長吉瓜破地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書 財団法人 大阪市文化財協会
- ・坪田真一 1998「VI 八尾南遺跡第21次調査（YS94-21）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告61』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助 1992「太田遺跡第1次調査（OOT91-1）」『平成3年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助 2000「V 太田遺跡第3次調査（OOT98-3）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告65』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 2001「III 太田遺跡第4次調査（OOT99-4）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告67』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・新海正博他2003.3『箕面市栗生間谷東所在 栗生間谷遺跡 旧石器・縄文時代編』－国際文化公園都市特定土地地区整理事業に伴う旧石器・縄文時代遺跡の調査－（財）大阪府文化財センター調査報告書第84集（財）大阪府文化財センター
- ・西村公助 橋口 薫 2003「V 太田遺跡第5次調査（OOT2002-5）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告75』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 2005「II 太田遺跡第6次調査（OOT2003-6）」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告82』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 2006「5. 太田遺跡第7次調査（OOT2005-7）」『平成17年度財団法人八尾市文化財調査研究会事業報告』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・2004 八尾南遺跡現地説明会資料『八尾南遺跡の調査』財団法人 大阪府文化財センター

図 版



調査前（南から）



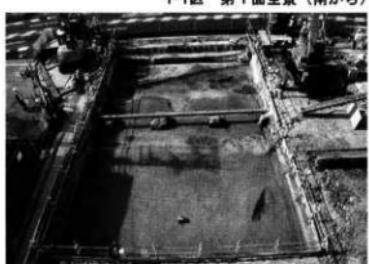
調査地周辺（北西から）



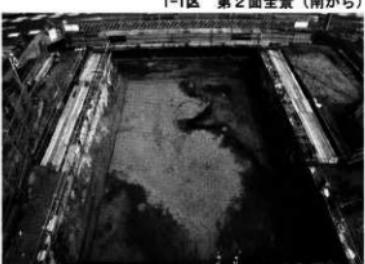
1-1区 第1面全景（南から）



1-1区 第2面全景（南から）



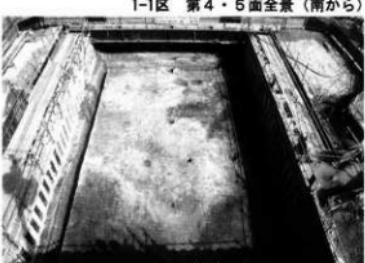
1-1区 第3面全景（南から）



1-1区 第4・5面全景（南から）



1-1区 第6面全景（南から）



1-1区 第7面全景（南から）



1-1区 第8面全景（南から）



1-1区 第9面全景（南から）



1-1区 第10面全景（南から）



1-1区 第11面全景（南から）



1-2区 全景（南から）



1-3区 全景（南から）



2-1・2-2区 第1面全景（東から）



2-1・2-2区 第2面全景（東から）



2-1・2-2区 第3面全景（東から）



2-1・2-2区 第4面全景（東から）



2-1・2-2区 第5面全景（東から）



2-1・2-2区 第6面全景（東から）



3区 機械掘削（南から）



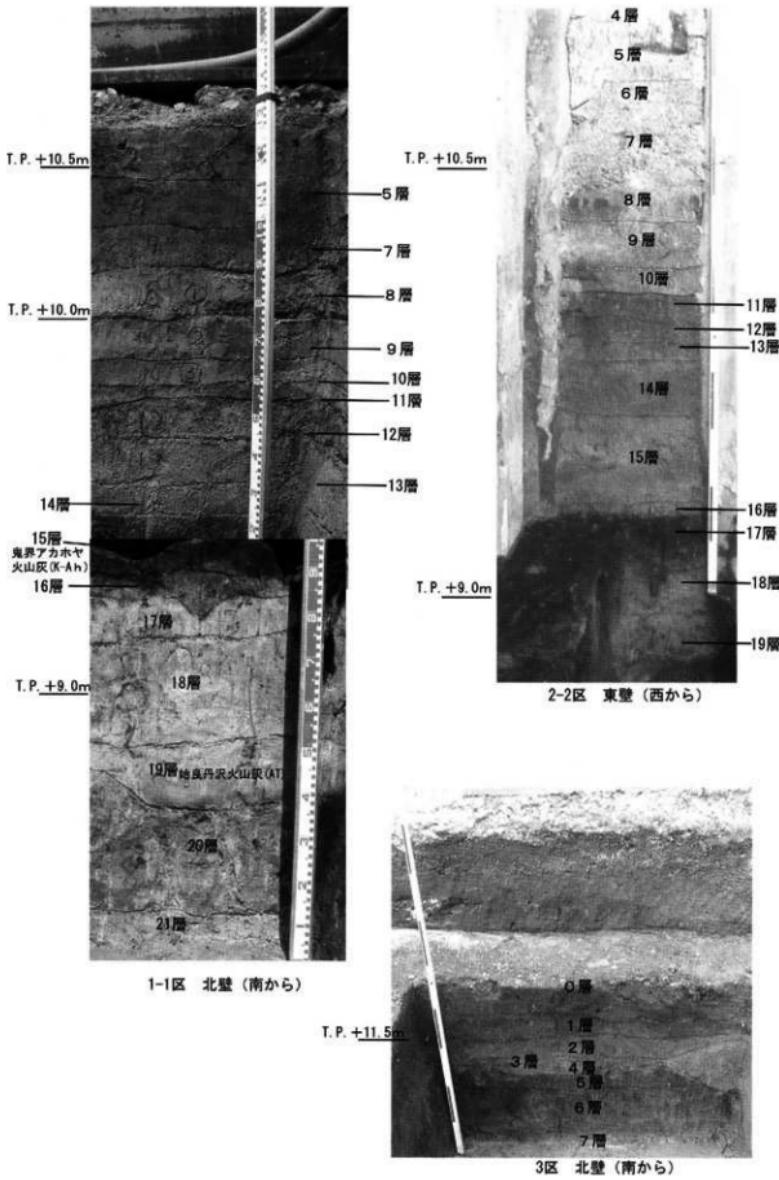
3区 第1面全景（南から）



3区 第2面全景（南から）



3区 第3面全景（南から）





1-1区17層上面石器(S127・128)出土状況(南から)



1-1区17層上面石器(S129～135)出土状況(南から)



1



2



3



4



5

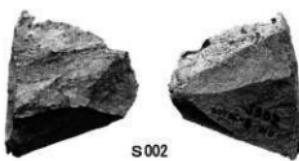


6

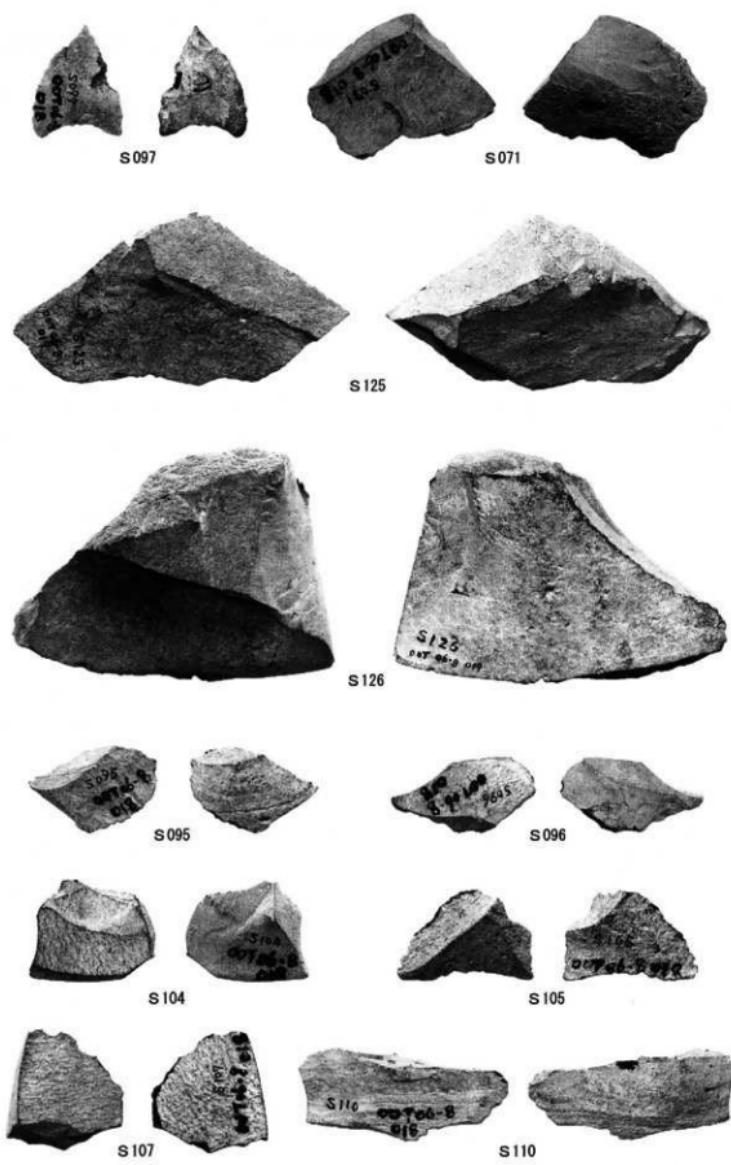


7

1-1区NR1401 (1~3)
2区SD2103 (4)
2区5層 (5)
2区6層 (6·7)



(1 : 1)



(1 : 1)



S 136



S 142



S 148



S 149



S 134



(1 : 1)



S135

(1 : 1)

報告書抄録

ふりがな	ざいだんほうじん やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく104
書名	財團法人 八尾市文化財調査研究会報告104
副書名	I 太田遺跡 第7次調査 II 太田遺跡 第8次調査
巻次	
シリーズ名	財團法人 八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	104
編著者名	I 高萩千秋 II 内村公助
編集機関	財團法人 八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町4丁目58-2 TEL・FAX072-994-4700
発行年月日	西暦2007年3月31日

所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
太田遺跡 (第7次調査)	大阪府八尾市太田三丁目地内	27212	68	34度 35分 32秒	135度 35分 12秒	2005/03/1 ~ 2005/11/11	約80m ²	公共下水道
太田遺跡 (第8次調査)	大阪府八尾市太田三丁目地内	27212	68	34度 35分 33秒	135度 35分 12秒	2006/05/12 ~ 2006/11/16	約372.94m ²	公共下水道
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
太田遺跡 (第7次調査)	集落	平安時代～鎌倉時代 近世	水田 溝					
太田遺跡 (第8次調査)	集落	縄文時代前期 弥生時代前期 弥生時代後期 古墳時代前期～中期 鎌倉時代	土坑 河川 土坑 溝 土坑 溝 土坑 溝 田 溝 田	石器 弥生土器 弥生土器 須恵器 瓦器				

第7次調査では平安時代～鎌倉時代の水田と近世の溝を検出した。
 第8次調査では、旧石器時代のナイフ形石器が出土し、縄文時代前期に相当する地層の中からは石器が出土した。また、弥生時代前期の河川と、弥生時代後期の土坑を検出した。さらに、古墳時代前期～中期の居住域が確認でき、鎌倉時代の生産域を検出した。

要約

財団法人 八尾市文化財調査研究会報告104

I 太田遺跡 第7次調査

II 太田遺跡 第8次調査

発行年月 平成19年3月
発行者 財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581-0821 大阪府八尾市幸町4丁目58番地の2
TEL・FAX (072) 994-4700

印刷所 梅近畿印刷センター
〒581-0033 八尾市志紀町南2丁目131番地
TEL (072) 920-3488
FAX (072) 920-3455

表紙 レザック66 <260Kg>
本文 ニューエイジ <70Kg>
図版 マットアート <135Kg>

